

基本計画書

基本計画書									
事項		記入欄						備考	
計画の区分		大学の設置							
フリガナ 設置者		ガッコウホウジン ジョウヨウガクエン 学校法人 常陽学園							
フリガナ 大学の名称		トウキョウイリョウガクインダイガク 東京医療学院大学 (University of Tokyo Health Sciences)							
大学本部の位置		東京都多摩市落合4丁目11番							
大学の目的		本学は、教育基本法及び学校教育法に則し、建学の精神の下に、幅広い教養と保健医療に関する専門の知識と技術の教授研究を通じて、広く国民の健康に貢献できる人材を育成することを目的とする。							
新設学部等の目的		保健医療学部では、理学療法及び作業療法の分野の専門職として、幅広い教養と高い倫理観のもとに、人への優しさ及び専門の知識と確かな技術を備え、常に、リハビリテーションに関する探究心を持ち、社会に貢献できる人材の育成を目的とする。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又は 称号	開設時期及び 開設年次	所在地	
	保健医療学部 [Faculty of Health Sciences] リハビリテーション学科 [Department of Rehabilitation Sciences] 理学療法学専攻 [Division of Physical Therapy] 作業療法学専攻 [Division of Occupational Therapy]	4年	70人	—人	280人	学士（理学療法学）	平成24年4月 第1年次	東京都多摩市落合4丁目11番	
			30人	—人	120人	学士（作業療法学）			
	計		100人	—人	400人				
同一設置者内における 変更状況 (定員の移行、名称の変更等)		該当なし							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
		講義	演習	実験・実習	計				
	保健医療学部 リハビリテーション学科	70科目	50科目	9科目	129科目	126単位			
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等						兼任 教員
			教授	准教授	講師	助教	計	助手	
	新設分	保健医療学部 リハビリテーション学科	13 (8)	5 (4)	4 (2)	3 (3)	25 (17)	1 (—)	44 (22)
		計	13 (8)	5 (4)	4 (2)	3 (3)	25 (17)	1 (—)	44 (22)
	既設分	該当なし	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)
		計	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)
合計		13 (8)	5 (4)	4 (2)	3 (3)	25 (17)	1 (—)	44 (22)	

教員以外の職員の概要	職 種		専 任		兼 任		計							
	事 務 職 員		15 (10)		－ (－)		15 (10)							
	技 術 職 員		1 (1)		－ (－)		1 (1)							
	図 書 館 専 門 職 員		1 (1)		－ (－)		1 (1)							
	そ の 他 の 職 員		－ (－)		－ (－)		－ (－)							
	計		17 (12)		－ (－)		17 (12)							
校 地 等	区 分		専 用		共 用		共用する他の 学校等の専用		計					
	校 舎 敷 地		12,703 m ²		－ m ²		－ m ²		12,703 m ²					
	運 動 場 用 地		5,880 m ²		－ m ²		－ m ²		5,880 m ²					
	小 計		18,583 m ²		－ m ²		－ m ²		18,583 m ²					
	そ の 他		4,764 m ²		－ m ²		－ m ²		4,764 m ²					
	合 計		23,347 m ²		－ m ²		－ m ²		23,347 m ²					
校 舎			専 用		共 用		共用する他の 学校等の専用		計					
			7,500.80m ² (7,500.80 m ²) (ー m ²)		ー m ² (ー m ²) (ー m ²)		ー m ² (ー m ²) (ー m ²)		7,500.80 m ² (7,500.80 m ²)					
教室等	講義室		演習室		実験実習室		情報処理学習施設		語学学習施設					
	10室		8室		11室		1室 (補助職員 1人)		一室 (補助職員一人)					
専 任 教 員 研 究 室			新設学部等の名称				室 数		大学全体					
			保健医療学部				26 室							
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称		図書 〔うち外国書〕 冊		学術雑誌 〔うち外国書〕 種		電子ジャーナル 〔うち外国書〕 点		視聴覚資料 点		機械・器具 点		標本	
	保健医療学部		8,640 [1,440] (4,320 [720])		88 [23] (80 [18])		14 [14] (14 [14])		98 (40)		1,722 (1,722)		29 (29)	
	計		8,640 [1,440] (4,320 [720])		88 [23] (80 [18])		14 [14] (14 [14])		98 (40)		1,722 (1,722)		29 (29)	
図 書 館			面積			閲覧座席数			収 納 可 能 冊 数			大学全体 体育館は多摩市 から借用 面積：784.25m ² 期間：H21.4から 30年間		
			436.36 m ²			100			30,000					
体 育 館			面積			体育館以外のスポーツ施設の概要								
			784.25 m ²			ー								
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経費の見積り	区 分		開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書購入費には電子ジャーナル14契約(14タイトル)・データベースの整備費(運用コスト含む)を含む。			
		教員1人当り研究費等			300千円	300千円	300千円	300千円	ー	ー				
		共同研究費等			3,000千円	3,000千円	3,000千円	3,000千円	ー	ー				
		図 書 購 入 費		34,740千円	20,386千円	21,374千円	5,000千円	5,000千円	ー	ー				
		設 備 購 入 費		183,545千円	ー	ー	ー	ー	ー	ー				
	学生1人当り 納付金	第1年次		第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次						
		1,850千円		1,550千円	1,550千円	1,550千円	ー 千円	ー 千円						
学生納付金以外の維持方法の概要			資産運用収入、雑収入 等											
既設大学等の状況	大 学 の 名 称		該当なし											
	学 部 等 の 名 称		修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又は 称号	定 員 超過率	開 設 年 度	所 在 地				
			年	人	年次 人	人		倍						
	該当なし		ー	ー	ー	ー	該当なし	ー	ー	該当なし				
附属施設の概要			該当なし											

校地等は多摩市から借用
面積：23,347 m²
期間：H21.4から30年間

校舎の一部は多摩市から借用
面積：4539.85 m²
期間H21.4から30年間

大学全体
（補助職員 1人）
（補助職員 1人）

大学全体
体育館は多摩市から借用
面積：784.25m²
期間：H21.4から30年間

図書購入費には電子ジャーナル14契約（14タイトル）・データベースの整備費（運用コスト含む）を含む。

学校法人 常陽学園 設置認可等に関わる組織の移行表

平成23年度	入学定員		平成24年度	入学定員	変更の事由
専門学校東京医療学院 理学療法学科 昼間部(3年制) 理学療法学科 夜間部(4年制) 作業療法学科 昼間部(4年制) 東京医療福祉専門学校 はり・きゅう・あん摩マッサージ指圧科 はり・きゅう科 昼間部 はり・きゅう科 夜間部 教員養成科(鍼灸マッサージ) 柔道整復科	32 30 0 46 30 30 25 30	→	<u>東京医療学院大学</u> <u>保健医療学部</u> <u>リハビリテーション学科</u> <u>理学療法専攻</u> <u>作業療法専攻</u>	70 30	大学新設
			専門学校東京医療学院 理学療法学科 昼間部(3年制) 理学療法学科 夜間部(4年制) <u>作業療法学科 昼間部(4年制)</u>	32 30 0	平成25年度末で廃止予定
			東京医療福祉専門学校 はり・きゅう・あん摩マッサージ指圧科 はり・きゅう科 昼間部 はり・きゅう科 夜間部 教員養成科(鍼灸マッサージ) 柔道整復科	46 30 30 25 30	
			東京医療福祉専門学校 はり・きゅう・あん摩マッサージ指圧科 はり・きゅう科 昼間部 はり・きゅう科 夜間部 教員養成科(鍼灸マッサージ) 柔道整復科	46 30 30 25 30	

※専門学校東京医療学院の作業療法学科昼間部は、平成23年度から学生募集停止。

教 育 課 程 等 の 概 要 (保健医療学部リハビリテーション学科理学療法専攻)															
科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数		授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教		助 手	
特色 科目	大学導入論	1前	1			○			3		1	1		集中 ※実習 オムニバス	
	ボランティア入門	1前	1					○		1				※講義	
	生命倫理	1後	2			○			1				兼3	オムニバス	
	小計（3科目）	—	4	0	0	—			4	1	1	1	0	兼3	—
教養科目	人間と社会	学びの技法	1前	1			○			1				兼1	集中 オムニバス
		教育学	1後		2		○							兼1	
		心理学概論	1前	2			○				1				
		人間発達学	1後	2			○					1			
		老年学	3前		2		○			1					
		法学入門	1後		1		○							兼1	
		歴史郷土学	1前		1		○							兼1	
		小計（7科目）	—	6	8	0	—			2	1	1	0	0	兼3
	科学的思考	情報処理（基礎）	1前		1			○						兼2	
		情報処理（応用）	1後	1				○						兼2	
		環境科学	1前		1		○							兼1	
		生命科学入門	1前		1		○							兼3	オムニバス
		行動科学	1前		1			○						兼1	
		自然科学概論	1前	2			○							兼1	
		物理学入門	1後	1			○							兼1	
		統計学	1後	2			○							兼1	※演習
		スポーツ医学	1前		1		○			1					
		福祉工学	3後		1			○						兼1	※講義
		小計（10科目）	—	6	8	0	—			1	0	0	0	0	兼11
	コミュニケーション・英語	コミュニケーション論	1前	1				○						兼1	集中
		カウンセリング入門	1後	1				○			1				
		日本語表現法	1前		1			○						兼1	
		英語（基礎）	1前		1			○						兼1	
		英語（英会話）	1後		1			○						兼1	
		保健医療英語入門	3前	1				○						兼1	
		保健医療英語講読	3後		1			○						兼1	
		小計（7科目）	—	3	4	0	—			0	1	0	0	0	兼3
	健康と社会	スポーツ・レクリエーション	1前		1			○		1				兼1	
		東洋手技療法入門	3前		1			○						兼1	※講義
		栄養学	2前		1		○							兼1	
		公衆衛生学	2前	1			○							兼3	オムニバス
		医療安全管理	2前	1			○							兼1	
		小計（5科目）	—	2	3	0	—			1	0	0	0	0	兼7

科目 区分	授業科目名の名称	配 当 年 次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備 考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
専門基礎科目	人体の構造と機能													
	解剖学（人体の構造）	1後	2			○			1					
	解剖学A演習（運動器・神経系）	2前	2				○		1					
	解剖学B演習（内臓・脈管系）	2後	2				○		1					
	生理学	1後	2			○			2					
	生理学演習	2前	2				○		2					
	生理学実習	2後	1					○	2					
	運動学	2前	2			○			1					
	運動学演習	2前	1				○		1					
	運動学実習	2後	1					○	1					
	小計（9科目）	—	16	0	0	—	—	—	4	0	0	0	0	—
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進													
	臨床心理学	1後	1				○		1					
	病理学概論	2前	1			○			1					
	薬理学概論	2後		1		○							兼1	
	内科学	2後	2			○			1					
	外科学概論	2後		1		○							兼1	
	整形外科学	2後	2			○							兼4	オムニバス
	神経内科学	2後	2			○			1					
	精神医学	2後	2			○			1					
	小児科学	2後	1			○			1					
	脳神経外科学	2後	1			○							兼1	
	医用画像解析学概論	3前	1			○							兼1	
	言語聴覚学概論	2後		1		○							兼1	
	小計（12科目）	—	19	3	0	—	—	—	4	1	0	0	0	兼9
	保健医療福祉とリハビリテーションの概念													
	リハビリテーション概論	1前	1			○			1					
	リハビリテーション医学	3前	1			○			2					オムニバス
	リハビリテーションチームワーク概論	1後	1			○			1	1				オムニバス
	社会福祉概論	1前		2		○							兼1	
	保健医療制度概論	3前		2		○							兼1	
	小計（5科目）	—	3	4	0	—	—	—	3	1	0	0	0	兼2

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
専門科目	基礎理学療法学	理学療法学概論1（理学療法導入論）	1前	2			○		1					
		理学療法学概論2（理学療法トピックス）	4後	2			○			1				
		理学療法学研究法	3後	1			○		1					
		理学療法管理法	4前	1			○		1					集中
		小計（4科目）	—	6	0	0	—	—	2	1	0	0	0	—
	理学療法評価学	理学療法評価学A （四肢周径・バイタルサイン等評価）	1後	1			○			1				
		理学療法評価学A演習 （四肢周径・バイタルサイン等評価）	1後	1				○		1		1		
		理学療法評価学B （関節可動域・筋力等評価）	2前	1			○			1				
		理学療法評価学B演習 （関節可動域・筋力等評価）	2前	1				○				1	1	
		理学療法評価学C （障害別評価）	2後	1			○		1	1				
		理学療法評価学C演習 （障害別評価）	2後	1				○	1	1		1	1	
		小計（6科目）	—	6	0	0	—	—	1	3	0	2	1	—
	理学療法技術論	理学療法技術論A （成人中枢神経系疾患）	3前	2			○							兼1
		理学療法技術論B （運動器系）	3前	2			○		1					
		理学療法技術論C （小児中枢神経系）	3後	1			○							兼1 オムニバス
		理学療法技術論D （神経筋疾患）	3後	2			○		1					
		理学療法技術論E （循環器・代謝系）	3後	2			○			1				
		理学療法技術論F （呼吸器系）	3後	2			○			1	1			
	理学療法治療学	運動療法A（基礎運動療法）	2後	1				○				1		
		運動療法B（病態運動療法）	3前	1				○	1					
		運動療法C（運動器系運動療法）	3前	1				○	1					
		運動療法D（外傷性疾患運動療法）	3後	1				○						兼1
		運動療法E（中枢神経系運動療法）	3後	1				○	1					
		日常生活活動学（理学療法）	3前	1			○				1			
		日常生活活動学演習（理学療法）	3前	2				○	2		1		1	オムニバス
		物理療法学	2前	2			○			1				
		物理療法学演習	2前	1				○		1		1		
		義肢学（理学療法）	3前	1				○						兼1 ※講義
		装具学（理学療法）	3後	1				○						兼1 ※講義
		小計（17科目）	—	24	0	0	—	—	3	3	1	1	1	兼4
	地域理学療法学	地域リハビリテーション学	3後	2			○		2	1		1		オムニバス
		地域の保健医療福祉	1後	1			○			1				兼2 オムニバス
		地域理学療法学	3後	1			○		1					
		地域理学療法学演習	4後	1				○	1	2	1	1		
		小計（4科目）	—	6	0	0	—	—	2	2	1	2	0	兼2

科目 区分		授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			授業形態			専任教員等の配置						備考
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
専門 科目	臨床 実習	臨床見学体験実習（理学療法）	2前	1					○	3	4	1	2	1		
		評価実習（理学療法）	3前	6					○	3	4	1	2	1		
		総合臨床実習（理学療法）	4前	12					○	3	4	1	2	1		
		小計（3科目）	—	19	0	0	—	3	4	1	2	1	0	—		
	卒業 研究	卒業研究（理学療法）	4後	2				○	3	4	1	2	1			
		小計（1科目）	—	2	0	0	—	3	4	1	2	1	0	—		
合計（99科目）			—	113	26	0	—	12	5	3	3	1	兼42	—		
学位又は称号		学士（理学療法学）		学位又は学科の分野				保健衛生学関係（看護学関係を除く）								
卒業要件及び履修方法								授業期間等								
必修113単位。選択科目は、教養科目から10単位、専門基礎科目から3単位を修得し、合計126単位を修得する。1年間の履修登録上限単位数は、42単位とする。								1学年の学期区分				2期				
								1学期の授業期間				15週				
								1時限の授業時間				90分				

教 育 課 程 等 の 概 要 (保健医療学部リハビリテーション学科作業療法学専攻)															
科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実験・実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		
特色 科目	大学導入論	1前	1			○			3		1	1		集中 ※実習 オムニバス	
	ボランティア入門	1前	1					○		1				※講義	
	生命倫理	1後	2			○			1				兼3	オムニバス	
	小計（ 3 科目）	—	4	0	0	—	—	—	4	1	1	1	0	兼3	—
教養科目	人間と社会	学びの技法	1前	1			○			1				兼1	集中 オムニバス
		教育学	1後		2		○							兼1	
		心理学概論	1前	2			○				1				
		人間発達学	1後	2			○					1			
		老年学	3前		2		○			1					
		法学入門	1後		1		○							兼1	
		歴史郷土学	1前		1		○							兼1	
		小計（ 7 科目）	—	6	0	0	—	—	—	2	1	1	0	0	兼3
	科学的思考	情報処理（基礎）	1前		1			○						兼2	
		情報処理（応用）	1後	1				○						兼2	
		環境科学	1前		1		○							兼1	
		生命科学入門	1前		1		○							兼3	オムニバス
		行動科学	1前		1			○						兼1	
		自然科学概論	1前	2			○							兼1	
		物理学入門	1後		1		○							兼1	
		統計学	1後	2			○							兼1	※演習
		スポーツ医学	1前		1		○			1					
		福祉工学	3後		1			○						兼1	※講義
		小計（ 10 科目）	—	6	7	0	—	—	—	1	0	0	0	0	兼11
	コミュニケーション・英語	コミュニケーション論	1前	1				○						兼1	集中
		カウンセリング入門	1後	1				○			1				
		日本語表現法	1前		1			○						兼1	
		英語（基礎）	1前		1			○						兼1	
		英語（英会話）	1後		1			○						兼1	
		保健医療英語入門	3前	1				○						兼1	
		保健医療英語講読	3後		1			○						兼1	
		小計（ 7 科目）	—	3	4	0	—	—	—	0	1	0	0	0	兼3
	健康と社会	スポーツ・レクリエーション	1前		1			○		1				兼1	
		東洋手技療法入門	3前		1			○						兼1	※講義
		栄養学	2前		1		○							兼1	
		公衆衛生学	2前	1			○							兼3	オムニバス
		医療安全管理	2前	1			○							兼1	
		小計（ 5 科目）	—	2	3	0	—	—	—	1	0	0	0	0	兼7

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実験・実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
専門基礎科目	人体の構造と機能	解剖学（人体の構造）	1後	2			○		1					
	解剖学 A 演習（運動器・神経系）	2前	2				○		1					
	解剖学 B 演習（内臓・脈管系）	2後	2				○		1					
	生理学	1後	2				○		2					
	生理学演習	2前	2				○		2					
	生理学実習	2後	1					○	2					
	運動学	2前	2				○		1					
	運動学演習	2前	1				○		1					
	運動学実習	2後	1					○	1					
	小計（9科目）	—	15	0	0		—		4	0	0	0	0	—
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	臨床心理学	1後	1			○		1					
	病理学概論	2前	1				○		1					
	薬理学概論	2後		1			○						兼1	
	内科学	2後	2				○		1					
	外科学概論	2後		1			○						兼1	
	整形外科学	2後	2				○						兼4	オムニバス
	神経内科学	2後	2				○		1					
	精神医学	2後	2				○		1					
	小児科学	2後	1				○		1					
	脳神経外科学	2後	1				○						兼1	
	医用画像解析学概論	3前	1				○						兼1	
	言語聴覚学概論	2後		1			○						兼1	
	小計（12科目）	—	13	3	0		—		4	1	0	0	0	兼9
	リハビリテーションの概念	リハビリテーション概論	1前	1			○		1					
	保健医療福祉とリハビリ	リハビリテーション医学	3前	1			○		2					オムニバス
		リハビリテーションチームワーク概論	1後	1			○		1	1				オムニバス
		社会福祉概論	1前		2		○						兼1	
		保健医療制度概論	3前		2		○						兼1	
	小計（5科目）	—	3	4	0		—		3	1	0	0	0	兼2

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実験・実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
専門科目	基礎作業療法学	作業療法学概論	1前	1		○			1					
		基礎作業学概論	1後	1		○					1			
		基礎作業学演習A（作業別技法）	1後	1			○				1			
		基礎作業学演習B（作業分析等）	2前	1			○				1			
		作業療法学研究法	3後	1			○		1		1			オムニバス
		作業療法管理法	3前	1		○			1					
		小計（6科目）	—	6	0	0	—	—	2	0	2	0	0	0
	作業療法評価学	作業療法評価学A（身体）	2前	1		○			1					
		作業療法評価学A演習（身体）	2後	1			○		1		1			オムニバス
		作業療法評価学B（精神）	2前	1		○			1					
		作業療法評価学B演習（精神）	2後	1			○		1					
		作業療法評価学C（発達）	2前	1		○					1			
		作業療法評価学C演習（発達）	2後	1			○				1			
		小計（6科目）	—	6	0	0	—	—	2	0	2	0	0	0
	作業治療学	身体障害作業療法治療学1（身体機能回復理論）	3前	2		○			1		1			オムニバス
		身体障害作業療法治療学2（疾患別治療学）	3後	2		○			1		1			オムニバス
		身体障害作業療法治療学演習	3後	1			○				2			
		精神障害作業療法治療学1（精神機能回復理論）	3前	2		○			1					
		精神障害作業療法治療学2（疾患別治療学）	3後	2		○			1					
		精神障害作業療法治療学演習	3後	1			○		1			1		
		発達障害作業療法治療学1（発達促進理論）	3前	1		○			1		1			オムニバス
		発達障害作業療法治療学2（疾患別治療学）	3後	1		○					1			
		発達障害作業療法治療学演習	3後	1			○				1			
		老年期作業療法治療学	3前	2		○					1			
		老年期作業療法治療学演習	3前	1			○				2			
		高次脳機能障害作業療法治療学	3前	1		○			1					
		高次脳機能障害作業療法治療学演習	3後	1			○		1					
		日常生活活動学（作業療法）	3前	1		○					1			
		日常生活活動学演習（作業療法）	3後	1			○				2			
		義肢学（作業療法）	3前	1			○						兼1	※講義
		装具学（作業療法）	3後	1			○						兼1	※講義
		職業関連作業療法学	3後	1			○		1		1			オムニバス
		小計（18科目）	—	23	0	0	—	—	2	0	3	1	0	兼1
	地域作業療法学	地域リハビリテーション学	3後	2		○			2	1		1		オムニバス
		地域の保健医療福祉	1後	1		○				1			兼2	オムニバス
		地域作業療法学	3後	1		○					2	1		オムニバス
		地域作業療法学演習	4後	1			○				2	1		
		小計（4科目）	—	5	0	0	—	—	2	1	2	1	0	兼2

科目 区分		授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実験・実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
専門科目	臨床実習	臨床見学体験実習（作業療法）	2前	1					○	2		3	1			
		評価実習（作業療法）	3前	6					○	2		3	1			
		総合臨床実習（作業療法）	4前	16					○	2		3	1			
		小計（3科目）	—	23	0	0	—			2	0	3	1	0	0	—
	卒業研究	卒業研究（作業療法）	4後	2					○	2		3	1			
		小計（1科目）	—	2	0	0	—			2	0	3	1	0	0	—
合計（98科目）			—	115	27	0	—			12	2	3	2	0	兼39	—
学位又は称号		学士（作業療法学）		学位又は学科の分野				保健衛生学関係（看護学関係を除く）								
卒業要件及び履修方法									授業期間等							
必修は115単位とする。選択科目は、教養科目から8単位、専門基礎科目から3単位を修得し、合計126単位を修得する。1年間の履修登録上限単位数は、44単位とする。									1学年の学期区分			2期				
									1学期の授業期間			15週				
									1時限の授業時間			90分				

授業科目の概要			
(保健医療学部リハビリテーション学科理学療法専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
特色 科目	大学導入論	本学が育成しようとする医療専門職の人材像を理解し、その職業を目指しての学習意欲と、専門職としての生涯学習の大切さを意識付けすることを目的とする。このため、建学の精神及び教育理念についての学習及び病院・介護施設等の見学を通して保健医療の専門職としての人材像を理解するとともにチーム医療を意識付け、また、生涯にわたって学習することの必要性を認識する。 (オムニバス方式／全8回) (1 佐久間康夫／1回) 建学の精神と教育理念について。 (① 金子誠喜／2回) 専門職の職業とチーム医療の内容について。 (2 幸福秀和／2回) 生涯学び続けることの必要性について。 (⑤ 浅沼辰志、⑧ 山口育子／3回) 病院・介護施設等の見学を通じた保健医療専門職の人材像の理解やチーム医療の意識付け。	オムニバス方式 講義8時間 実習6時間
	ボランティア入門	ボランティア活動(実習)を通して、本学の建学の精神である「人に優しく、社会貢献」の精神を身につけることを目的とする。具体的には、ボランティア活動を通して社会奉仕の大切さを学び、地域の様々な人との触れ合いの中で人への優しさや思いやりの心を育むとともに、コミュニケーション能力の基礎を身につける。実施に当たっては、実践の在り方などに関する講義を受けた後、多摩市社会福祉協議会の協力により、当該協会に加盟するボランティア団体等の活動に参加する。ボランティア活動後には、ボランティア活動を通して感じたことを報告会で発表する。	実習41時間 講義4時間
	生命倫理	現代社会における生命に関しての倫理的諸問題を理解して、保健医療に携わる者として命の尊さなど基本的な倫理観を身につけることを目的とする。具体的には、脳死、臓器移植、安楽死・尊厳死、末期医療などの人の生命に関わる倫理的課題について、宗教・哲学・死生学・法学・医学などの幅広い側面から学習する。 (オムニバス方式／全15回) (26 田口博子／3回) 宗教の側面から学習。 (25 宮嶋俊一／6回) 哲学・死生学の側面から学習。 (27 松崎 勝／3回) 法学の側面から学習。 (3 武田淳史／3回) 医学の側面から学習。	オムニバス方式

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目	人 間 と 社 会		
	学びの技法	充実した大学生活を送るためのスタディスキル及びチューデントスキルを身につけることを目的とする。具体的には、大学におけるスタディスキルである履修科目、授業科目、授業時間、時間割、シラバスへの対応などの学習方法、レポートや文書・書類の書き方、図書館の利用法、プレゼンテーション技術・情報管理等について学習する。また、チューデントスキルとしての時間管理や学習習慣、健康、社会生活等について学習する。 (オムニバス方式/全8回) (28 岡田守弘/1回) 大学生としての学習の心構えについて。 (4 近藤照彦/4回) 大学でのスタディスキルについて。 (4 近藤照彦/1回) 健康管理とキャンパスライフについて。 (28 岡田守弘/2回) 時間管理や学習習慣、大学人としての社会生活について。	オムニバス方式
	教育学	教育の名の下に行われるあらゆる教育実践において生じている臨床的諸問題の予防と対処を目的としている心理・教育的援助サービスの意義と効用、さらには限界について理解することを目的とする。学校に限らず医療・福祉・企業・地域社会・家庭等における教育実践が、社会・文化の急激な多様化に伴って危機的状況にあると指摘されている。「教育とは何か」を認識するとともに、危機的状況の発生する機序が人と環境との相互作用によってもたらされることを理解し、その解決の在り方について学ぶ。	
	心理学概論	心理学の客観的で普遍的、ないし個別的法則または原理を身につけることを目的とする。具体的には、生理的・生物学的基礎、学習、動機付けなど、人間が生きていることを支えている適応のメカニズムについて学ぶ。そして、人間の示す多くの生活活動が、生理的・身体的欲求の充足や理想の実現といった価値的欲求の充足を目指すことなど、人間の示す幅広い目標指向性について学ぶ。また、心理学は“行動”と“心的過程”を研究するため、対象者への対処方法(観察・実験・調査等)についても学ぶ。	
	人間発達学	人間の発達を身体・心理・社会などの各側面から理解することを目的としている。そのために、人間が生まれてから青年前期までを中心に、その成長・発達を、身体機能、心理機能、及び社会的機能の各側面から学習する。また、青年後期以降の各ライフステージにおける人間発達の概要についても学習する。	
	老年学	健康な高齢者や障害のある高齢者がQOLの維持、向上を図るために、幅広い視点から支援していくための知識を身につけることを目的とする。従来、老年学は老化のメカニズムや障害高齢者を対象に介護・看護・医療を中心とする学問分野であった。しかし超高齢社会を迎えている現在、大多数の高齢者は自立しており、生涯発達の視点も含めて、これらの高齢者が廃用症候群や認知症を予防し、地域での生活を継続するための対策について学習する。	
	法学入門	大学人あるいは社会人として必要な、社会における行動規範とその対応を理解することを目的とする。社会生活の基本である日本国憲法を始め、人権や社会生活に関わる法律問題について学習する。具体的には、人権やコンプライアンス、個人情報保護法、民法、刑法などの基本的な社会規範を学習する。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目	人間と社会 歴史郷土学	地域における保健医療に携わる専門職には、地域の一員として地域に根付く歴史や文化を理解した上で行動することの大切さを認識することが必要である。このため、本学のある多摩地区を中心に、江戸時代から今日に至るまでの歴史、文化についての学習を通して地域文化に対する理解力を身につける。	
	情報処理（基礎）	大学での学習においてコンピュータや情報通信ネットワークを活用して、自ら情報を収集、処理し、発信するために必要となる基礎的な知識と技能の習得を目的とする。このため、情報理論の基礎、コンピュータ、ネットワーク、ソフトウェアについて理解し、文書処理、プレゼンテーション資料作成、表計算におけるアルゴリズムの理解からプログラムへの展開など、問題解決できるよう学習する。	
	情報処理（応用）	高度な専門性をもった医療専門職を目指す者として必要となる情報処理能力の習得を目的とする。具体的には、レポートや学術論文を作成するための文書処理能力、統計処理のアルゴリズムを理解して表計算ソフトウェア上でプログラミングできる能力、多様なソフトウェアを有機的に利用し情報を統合、整理し、効果的にプレゼンテーションできる能力を学習する。さらに、医療情報や個人情報の保護についても学習する。	
	環境科学	CO ₂ の削減など、緊急な課題となっている地球温暖化をテーマに、その原因と対策について科学的に理解することを目的とする。具体的には、地球温暖化の原因を探り、身近で実践できる具体的な対策に関して学習する。	
	科学的思考 生命科学入門	保健医療専門職を目指す者として、人間を含む生物の営む生命活動について学び、学生が生命への興味を促すことを目的とする。具体的には、生命の起源・恒常性維持・性と生殖・再生医療について、講義を通して生命の概念を理解することを目的とする。また、生命科学が我々の日常の中でどのように応用されているかについても学習する。 （オムニバス方式／全8回） （33 廣瀬 肇／2回）生命の起源について。 （34 岡野ジェイムス洋尚／3回）再生医療について。 （35 船橋利也／3回）恒常性維持・生殖・遺伝について。	オムニバス方式
	行動科学	行動科学とは人の行動を総合的に解明し、予測・統御しようとする実証的経験科学である。行動科学の研究成果は、医療分野で数多く導入されてきた。利用者・患者の受療行動を促すうえでも、医療従事者の医療行動を改善するうえでも、行動科学の研究成果は欠かせないものとなっている。本授業では利用者・患者行動と医療従事者行動の両方を取り上げながら、講義と演習を通して実践的な援助技術を身につけていく。	
	自然科学概論	専門基礎科目の「解剖学」、「生理学」、「運動学」を学ぶには、基礎学力として高校の「物理1」、「生物1」、「化学1」の知識が必要であるが、高校でこの3科目全部を履修している学生は少ない。このため、「物理1」、「生物1」、「化学1」の中から必要な内容について学習し、専門基礎科目の学習が円滑に進められるようにするとともに、学生の学習意欲を高める。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目	科学的思考	物理学の基礎的なものの見方や理解の方法を身につけることを目的とする。身体運動に関与する力は、重力、外力、筋収縮で発生する張力、摩擦力等である。筋と関節の構造は機械系のデコ構造に類似し、関わる力は力学的分析で説明される。生体の姿勢や運動を理解するためにニュートン力学を学ぶ。また、治療に用いられる温熱療法、電気療法、水治療法等を理解するための基礎となる熱の作用、流体力学、電気と磁気等の基礎を学ぶ。	
		臨床的調査や実験で得られた各種データを解析するために必要な統計学的手法を身につけることを目的とする。ヒストグラムの意義と作成、確率の概念、確率分布、標本分布、母平均、分散の推定、母平均の信頼区間、仮説検定、単回帰分析、重回帰分析等の意義と手法を学習する。	講義21時間 演習9時間
		高齢社会を視野に入れて、高齢者の体力作り、健康維持などの方策としてのスポーツの在り方について、また様々な年齢でおこるスポーツによる損傷とその予防策について理解することを目的とする。具体的には、運動中の生体のメカニズム、運動中のエネルギー供給のメカニズム、トレーニングによる生体の変化について理解する。その上で、運動処方、コンディショニングの理論と方法を学習する。	
		障害者や高齢者が自立生活を営むために必要な福祉用具や生活環境のあり方について理解することを目的とする。そのために、生活環境のあり方について、福祉工学的アプローチに基づく調査あるいは実験的な種々の取り組みについて、また、福祉用具や、生活環境整備の根底にある、ものづくりに対する設計について学習する。	演習21時間 講義9時間
	コミュニケーション・英語	医療者間のコミュニケーションは、“チーム医療”の成否を左右することになり、また、患者とのコミュニケーションは、治療効果や患者満足度に大きな影響を与える。そのために、医療の専門家を目指す学生はコミュニケーションを一般的な知識としてではなく、実践的な技術として身につけていく。本授業では講義による知識学習ではなく、演習による技術学習を中心にして、実践的なコミュニケーション能力を身につけていく。	
		障害者ばかりでなく地域、学校などにおけるカウンセリングの必要性などについて総合的に理解することを目的とする。具体的には、人の内面を理解するための、言語的方法によるカウンセリングの諸理論、及びその技法の基本を学習する。	
		社会で求められる言語によるコミュニケーション能力の基礎・基本を身につけることがこの科目の目的である。音声によるコミュニケーションに必要な聴く力と、人に伝えるために必要な表現する力を体験を通して学ぶ。また、文字によるコミュニケーションの基盤となるクリティカルな思考力と、内容を正確に伝えたり説明したりするうえで必要な表現する力を身に付ける。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目	コミュニケーション・英語	英語（基礎）	高校で学んだ基礎的事項を発展させ、言語の4技能である「話す」「聞く」「読む」「書く」を総合的に習得することを目的とする。日常生活における基礎的な会話の習得や英語を聞き取る力を養う（「話す」「聞く」）とともに、基礎レベルの英語文献を理解するために必要となる読解力・文法力、及び語彙力の強化を図り、短い英文からパラグラフの書き方まで、英文を構成する基礎的な英語力を身につける。	
		英語（英会話）	英語（基礎）において学んだ知識を基に、基本的な日常会話表現に慣れるとともに、外国人とのやり取りを想定したロールプレイング演習を通して日常的な会話場面でのコミュニケーションをとるために英語を学ぶことを目的とする。さらに、発音やアクセントなどにも注意を払いながら、英語によるプレゼンテーションやスピーチの基礎を学び、幅広い話題について「発信」できる能力を身につける。	
		保健医療英語入門	リハビリテーションを実施する上で必要な、保健医療に関する英語を習得することを目的とする。具体的には、専門用語の内容が説明でき、患者との簡単な英会話の内容を理解し、質疑応答ができること、またカルテ（診療記録）の読み方、略語の意味を習得する。さらに、外国人医療従事者との英語によるコミュニケーションが図られ、英語で円滑な業務が行えることを目指して学習する。	
		保健医療英語講読	保健医療英語講読では自立的な英語学習能力を養うことを目的とする。そのため、健康・医療問題に焦点をおいたテキストを読み、内容を理解する能力を養いながら、幅広い医学用語・表現を習得する。さらに国際的な学術雑誌やデータベースに掲載されている内容を正確に理解する力を養う。インターネット等から各回のテーマに関連した最新の英語情報を収集し、レポートにまとめる等の課題を通して自ら課題を発見、設定しかつ発展させる自立的な学習を行う。	
	健康と社会	スポーツ・レクリエーション	スポーツやレクリエーションについて実践的に学ぶことを目的とする。具体的には、競技方法やレクリエーションを学び、実際に体育館や運動場においてスポーツやレクリエーションの実技も習得するとともに、学生の健康増進に努め、楽しみを分かち合いながらチームワークを学ぶ。	
		東洋手技療法入門	本学の母体である常陽学園の精神的柱である「人に優しい」東洋医学の一つの治療手技である、あん摩について理解することを目的とする。具体的には、あん摩の歴史、理論、技法を学習する。また、非侵襲的な東洋医学の方法であり、リハビリテーションの技法にも通じる、あん摩を用いて、どのような触れ方がやさしいのか、痛いのか、不快なのか、などを感じることにによって、「人に優しい」ということを体験的に学習する。	演習21時間 講義9時間
		栄養学	人間が生まれてから死ぬまでを、栄養学の観点から理解することを目的とする。そのために、五大栄養素の働き、栄養素と食品との関係、日本人の食事摂取基準と食生活、治療食の種類と分類、食生活と生活習慣病の関係について、また、ライフサイクルと栄養について学習する。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目	健康と社会 公衆衛生学	疾病の発生要因を広く社会との関連から追及し、その予防対策をたてる公衆衛生学について理解することを目的とする。具体的には、公衆衛生学の定義、衛生行政、公衆衛生の主要指標である人口動態や生命表などの見方を理解する。煙草やアルコールなどの健康阻害要因、保健対策や環境問題、労働衛生、また、各種の疾病の発生要因とその予防対策について学習する。 （オムニバス方式／全8回） （46 永原則之／3回）公衆衛生学の基本的知識と環境病及び高齢者保健について。 （47 北村勝彦／3回）疫学の基本的知識と学校保健及び成人保健について。 （48 千葉百子／2回）産業保健と国際保健について。	オムニバス方式
	医療安全管理	医療専門職として、事故や感染症の予防、発生時の速やかな対応、発生原因の分析ができるようになることを目的とする。医療現場における安心・安全の確保は、最も重要な課題である。しかし、医療や介護などの現場で事故は発生しており、現場で働く職員には、事故や感染症の予防のための、また、事故や感染症が発生した場合のマネジメント能力が求められている。具体的には、様々な事例を通して学習する。	
専門基礎科目	解剖学 （人体の構造）	人体の構造を理解するために必要な、身体各部の一般的な構造を理解することを目的とする。具体的には骨、筋、神経、消化器系、呼吸・循環器系、感覚器系等の一般的な構造、及び発生について学習する。	
	解剖学A演習 （運動器・神経系）	「解剖学」で学習したことを受けて、運動器・神経系の詳細な構造について、演習を中心に学習することを目的とする。具体的には、骨、関節、靱帯、筋、脳、脊髄、末梢神経等の構造、及び機能解剖学的視点から、各種模型、標本などを用いて学ぶ。これらの内容は、「基礎運動学」、「応用運動学」、「疾患と障害の成り立ち及び回復過程の促進」に関する科目群を学習する上での、基礎となる知識として身につける。	
	解剖学B演習 （内臓・脈管系）	「解剖学」で学習したことを受けて、内臓・脈管系の詳細な構造について、演習を中心に学習することを目的とする。具体的には消化器系、呼吸・循環器系、感覚器系等の構造について各種模型、標本、などを用いて学ぶ。これらの内容は、「疾患と障害の成り立ち及び回復過程の促進」に関する科目群を学習する上での、基礎となる知識として身につける。	
	生理学	人体の生理的機能を理解することを目的とする。具体的には、動物系機能として、細胞生理学、興奮の伝達、筋の収縮などについて、また、植物系機能として、感覚機能、血液、呼吸・循環、代謝、内分泌、生殖などについて学習する。	
	生理学演習	「生理学」で学習したことを受けて、人体の機能について、演習を中心に学習することを目的とする。具体的には、模型や標本の観察、学生同士での各種測定や、反射・反応の観察などを通じて学ぶ。これらの内容は「疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進」に関する科目群を学習する上での基礎となる知識として身につける。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎科目	生理学実習	本実習は、生きた材料を用いて生理現象を理解することを目的とする。具体的には、実験の方法、実験用の機器・器具の扱い方、作動原理を実習を通して学習する。また、骨格筋の収縮や神経の活動電位の記録等について、生きた材料を用いて実験を行い、実験データの処理についても学習する。	
	運動学	「運動」を多角的に捉えるための基礎知識を身につけることを目的とする。具体的には、骨、筋、関節、神経など、運動器と感覚器の構造と機能を解剖学的、生理学的に踏まえ、四肢・体幹の骨の構造と運動、筋の力学的特性と運動、関節構造と運動、神経機構と運動、神経学的反射機構と運動能力の関係、呼吸循環器機能と運動などについて学ぶ。更に、姿勢制御理論、運動制御理論、運動学習理論などを学ぶ。	
	運動学演習	身体運動の全体から、筋や神経を始めとする個々の機能や関連が理解できるようになるための基礎的能力を演習を通じて身につけることを目的とする。具体的には、運動学で学んだ、運動、動作、姿勢の分析方法などの知識を基に、障害者と健常者の身体運動のうち、歩行動作や基本的動作について、骨、筋、関節、神経的に、観察し分析する方法を学習し、運動機能回復、介護予防や転倒予防などへの応用のための基礎となる知識として身につける。	
	運動学実習	機器を用いて対象者を分析し、理解するための基礎的な能力を身につけることを目的とする。本実習では正常な人間の運動を、観察や計測機器を用いて確認し、記録し、解析するという一連のプロセスを通して運動学の実験的方法を学習する。具体的には、筋骨格と関節運動、静止姿勢、姿勢の変換、手の動作、上肢の動作、歩行などについて実習を行い、データの読み方や解釈について学習する。	
	臨床心理学	対象者を理解するための枠組みの一つとして、臨床心理学に関する知識を習得することを目的とする。臨床心理学は心理学の中でもその人の心の悩みや葛藤について理解し、援助を行う実践的な学問である。臨床心理学の位置づけ、定義、概念、心理機制、対象疾患等について学んだ後に、心理検査、心理療法を中心に臨床場面での心理学の手法について学習する。	
	病理学概論	病理学は、疾病と症候の意義と分類、病因となる内因と外因を踏まえ、退行性病変、循環障害、進行性病変、炎症、免疫疾患、アレルギー疾患、腫瘍、先天異常などに含まれる主要疾患について理解することを目的とする。具体的には疾病の原因、経過、本態、他疾患との鑑別、治療効果などについて細胞、組織、臓器などの形態の変化の点から学ぶ。	
	薬理学概論	薬剤の使用目的、効能、使用方法、禁忌事項などについて理解することを目的とする。具体的には、薬剤の使用目的については、疾患の原因を取り除く原因療法、体内に欠乏する物質を補う補充療法、疾患の原因を取り除くことができなくとも病気による不快な症状を取り除く対症療法、インフルエンザワクチンなどのような予防接種等について学習する。また、高血圧、糖尿病、精神病など、リハビリテーションの対象となる疾患のための薬物については、訓練との関係から禁忌事項などについても学習する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎科目 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	内科学	内科の主要な疾患と、その治療などについて理解することを目的とする。具体的には、内科学診断法の概要、主要疾患の病態、病理、症状、理学的検査、生理検査、治療方法、予後などについて学習する。また、リスク管理との関連で、血圧、脈拍、呼吸などのバイタルサインの見方と意義、このほか心電図の読解、レントゲン写真の読影などについての基本的な事項を学習する。	
	外科学概論	外科の主要な疾患と、その治療などについて理解することを目的とする。具体的には、診断法及び手術方法の概要と経過、リハビリテーションの重要な課題の一つである外傷及び術後の創傷治癒過程における廃用症候群などについて学習する。	
	整形外科学	リハビリテーションの対象となることの多い整形外科疾患と、その治療などについて理解することを目的とする。具体的には、整形外科の対象となる骨・関節・筋・神経・軟部組織等の運動器に関する疾患や障害についての病態、病理、臨床症状、治療手技、予後等について、また、整形外科領域で汎用される義肢・装具について学習する。 （オムニバス方式／全15回） （52 濱田良機／8回）整形外科学総論及び上肢の外傷・腫瘍・先天性疾患・リハビリテーション中の安全管理について。 （53 前川慎吾／2回）脊柱の疾患と外傷及び軟部組織の損傷について。 （54 堀内忠一／2回）変形性関節症及びリウマチなどの関節疾患について。 （55 杉山肇／3回）骨疾患及び下肢の外傷について。	オムニバス方式
	神経内科学	神経内科疾患と、その治療などについて理解することを目的とする。具体的には、神経症候学の概要、及び主要な神経疾患である脳卒中、パーキンソン病などの神経疾患、筋ジストロフィーなどの筋疾患、難病等のリハビリテーションの対象となることの多い疾患について、病態、病理、症状、治療、予後等について学習する。	
	精神医学	精神疾患あるいは精神障害と、その治療などについて理解することを目的とする。具体的には、統合失調症、発達障害、認知症など精神科作業療法の他に身体障害作業療法の場においても治療対象となることが多い疾患の、病態、症状、治療法、予後について学習する。また、精神保健福祉に関する法制度や施策についてもその概要を学習する。	
	小児科学	小児疾患とその治療などについて、理解することを目的とする。具体的には、小児の成長・発達過程、及び小児リハビリテーションの対象となる脳性麻痺や知的障害、筋ジストロフィーなどの小児疾患の病態、症状、治療方法、予後について学習する。また、最近では、作業療法士が新生児ICU(NICU)で、あるいは退院後の経過観察の中で未熟児に接する機会が増加しているため、その評価、及び超早期療育、重症心身障害児の療育について学習する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	脳神経外科学	脳神経外科疾患とその治療などについて、理解することを目的とする。具体的には、脳腫瘍、脳血管障害、頭部外傷、中枢神経系の奇形、水頭症、脊髄・脊椎腫瘍、椎間板ヘルニアなど、リハビリテーションの対象となることの多い疾患について、診断法及び手術方法の概要と経過等について学習する。	
	医用画像解析学概論	医用画像解析学概論では、実際の各種の画像と病態との結びつきを理解することを目的とする。具体的には、単純X線写真、断層X線写真、CTスキャン、MRI等の原理、画像の見方、及び所見から推測される病態について、また、核医学等の放射線治療学の概要について学習する。	
	言語聴覚学概論	言語聴覚士の業務内容と言語聴覚療法の基本的な考え方を理解することを目的とする。具体的には、リハビリテーションチームの一員である言語聴覚士との協業のあり方と、チーム医療の円滑化について学習する。また、脳血管障害に合併しやすい失語症や麻痺性構音障害を始めとした、言語聴覚障害の種類、病態、評価法、治療方法等の概要を学ぶ。	
専門基礎科目	リハビリテーション概論	リハビリテーションの全体像を理解することを目的とする。具体的には、リハビリテーションの歴史的変遷、WHOが制定したリハビリテーションの定義、ノーマライゼーション、IL等の理念とリハビリテーションの4相（医学、教育、職業、社会）の意義などについて学習する。また、障害の国際分類（ICIDH、ICF）、障害に対するアプローチの内容、チーム医療の意義と関連職種の種類や役割について学習する。	
	リハビリテーション医学	リハビリテーション医学における診断法、治療法などについて理解することを目的とする。具体的には、リハビリテーションの対象となる疾患について、病態、症状、運動・感覚検査、心理、発達、日常生活活動などの各種の評価法や、筋電図・神経伝導速度測定、呼吸機能検査、運動負荷テストなどの臨床検査法、理学療法、作業療法、義肢装具療法などの治療概要、予後、及び復帰後の経過等について学習する。 （オムニバス方式／全8回） （6 鴨下博／4回）リハビリテーション医学の対象疾患と診断。 （8 落合幸勝／4回）リハビリテーション医学の治療法。	オムニバス方式
	リハビリテーションチームワーク概論	リハビリテーションは“チーム医療”であり、その医療を円滑に進めるための職種間の連携について理解することを目的とする。具体的には、医師を始めとしたリハビリテーション関連職種の個々の役割の概要と、職種間でオーバーラップする役割の部分について理解した上で、業務の流れの調整、クリニカルパスの運用、地域連携などの協業を円滑に進めるために必要なコミュニケーションシステムを始め種々のチームワークの技法を学習する。 （オムニバス方式／全8回） （1 古井智晴／4回）職種ごとの役割と連携について。 （2 幸福秀和／4回）チームワークの概論と、その技法について。	オムニバス方式

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎科目	保健医療福祉とリハビリテーションの概念	社会福祉概論	社会福祉・介護の関連法規、制度について理解を深め、活用できることを目的とする。過去から、現在に至る高齢者、障害者の状況を知り、今後の課題を明らかにしていく。具体的には、障害者自立支援法、介護保険法などの高齢者や障害者に関連する法律的側面、及び現状のシステムのあり方について学習する。	
		保健医療制度概論	わが国の医療保険制度の全体像を理解することを目的とする。保健医療制度の歴史、制度の内容について理解し、国民の健康に寄与してきた医療保険制度の役割について学習する。	
専門科目	基礎理学療法学	理学療法学概論 1 (理学療法導入論)	理学療法の全体像を理解し、学習意欲を高めるとともに、対象者に適した理学療法を実施するために、生涯学習の必要性について認識することを目的とする。具体的には、理学療法の歴史、理学療法士・作業療法士法に基づく、理学療法の定義や倫理、法的根拠及び理学療法の治療原理やその対象疾患等について学び、さらに、理学療法の進展に伴う、生涯学習の必要性について理解する。また、障害者体験を通して、患者の立場を理解することができるよう学習する。	
		理学療法学概論 2 (理学療法トピックス)	臨床現場での理学療法に関する最新のトピックスを知ることによって、様々な出来事とその対応策を学び、対応能力を身につける。具体的には、医療保険における4大疾患（運動器疾患・脳血管疾患・呼吸器疾患・心大血管疾患）に係る理学療法の最新トピックスや福祉分野での介護保険サービスの現状や起業について、現職の理学療法士をゲストスピーカーとして招聘し学習する。理学療法に関する最新の知識を得るとともに、自分の将来像を確立する手助けとする。担当教員は、ゲストスピーカーのコーディネートを担当するとともに、理学療法士の現状と今後の課題をまとめる。	
		理学療法学研究法	研究とは何か、研究へのアプローチと進め方はどのように行うか、研究成果はどのようにまとめるかなど卒業研究に結びつくような理学療法の研究法について演習を中心に学習する。内容は、問題関心、研究課題設定の方法、先行研究の調査、統計的データの活用方法などについて学習する。	
		理学療法管理法	理学療法部門の管理運営、及び理学療法士としての人材像を理解することを目的とする。具体的には、理学療法部門の人事・予算・物品・部門開設などの管理運営に関する事項について学習し、また、臨床の現場で理学療法士に求められる高い倫理観や生涯学習の必要性について、日本理学療法士協会の倫理規定などに沿って学習する。	集中
	理学療法評価学	理学療法評価学A (四肢周径・バイタルサイン等評価)	理学療法の基本となる四肢周径及びバイタルサインについて、検査・測定に基づく評価法に関する知識を学ぶことを目的とする。具体的には、解剖学や生理学で学んだ基礎知識を基に、患者の疾病の特定部位を判断するための筋・腱の触診、四肢の長さや太さの測定、理学療法を実施する上で欠かせないリスク管理を行うためのバイタルサイン測定の意義などを理解する。さらに、検査・測定で得られた結果の解釈及び治療の可否等の判断をするために必要な知識を習得する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	理学療法評価学A 演習（四肢周径・バイタルサイン等評価）	理学療法評価学Aで学習したことを踏まえ、筋・腱の触診、四肢の長さや太さを測り、異常について判断する四肢長・周径測定、理学療法を実施する上で欠かせないリスク管理を行うためのバイタルサイン測定に基づく評価技術を身に付ける。学習は、学生同志による演習方式で行う。	
	理学療法評価学B （関節可動域・筋力等評価）	理学療法を実施するにあたって、全ての疾患に共通する関節及び筋力について、検査・測定に基づく評価法に関する知識を学ぶことを目的とする。具体的には、頭部から四肢・体幹・手指の全ての関節の動きを検査し記録する関節可動域測定、全身の筋肉のひとつひとつの筋力を検査し記録する徒手筋力検査法について学習する。	
	理学療法評価学B 演習（関節可動域・筋力等評価）	理学療法評価学Bで学習したことを踏まえ、頭部から四肢・体幹・手指の全ての関節の動きを検査し記録する関節可動域測定、全身の筋肉のひとつひとつの筋力を検査し記録する徒手筋力検査法に基づく評価技術を身に付ける。学習は、学生同志による演習方式で行う。	
	理学療法評価学C （障害別評価）	理学療法評価学A・B及び同演習で学習した知識と技術を踏まえ、広義の動作障害に対する評価の手段と方法論について学ぶことを目的とする。具体的には、障害内容に対応した評価技術の抽出方法、検査・測定の優先性を理解する。感覚検査、筋緊張検査、反射検査、片麻痺運動機能検査、バランス検査等の原理、目的、検査・測定について学習する。また、検査・測定により収集したデータを分析・考察してデータの意味を解釈し、対象者の障害を総体的に考える能力を身に付ける。	
	理学療法評価学C 演習（障害別評価）	理学療法評価学Cで学習したことを踏まえ、感覚検査、筋緊張検査、反射検査、片麻痺運動機能検査、バランス検査等の原理、目的、検査・測定に基づく評価技術を身に付ける。学習は学生同志による演習方式で行う。	
	理学療法技術論A （成人中枢神経系疾患）	成人片麻痺患者の理学療法が行えるようになるために、必要な知識を身に付けることを目的とする。具体的には、専門基礎科目において学んだ脳卒中の病態や医学的な治療法と、理学療法評価学で学んだ評価技術及び評価法についての知識を統合して、片麻痺の理学療法を行うための治療理論を学習する。また、成人片麻痺患者の急性期から回復期、維持期までの、時間的経過ごとの理学療法についても学習する。	
	理学療法技術論B （運動器系）	運動器疾患の理学療法が行えるようになるため、必要な知識を身に付けることを目的とする。具体的には、骨折、リウマチ、関節炎など整形外科（脊髄損傷・切断を含む）疾患ならびに熱傷に関して、専門基礎科目において学んだ運動器疾患の病態や医学的な治療法と、理学療法評価学で学んだ評価技術及び評価法についての知識を統合して、運動器疾患の理学療法を行うための治療理論を身に付ける。併せて急性期におけるベッドサイド治療の注意点、リスク管理を学習する。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 理学療法治療学	理学療法技術論C (小児中枢神経系)	脳性麻痺を始めとした小児の中枢神経疾患の理学療法が行えるようになるため、必要な知識を身につけることを目的とする。具体的には、新生児から月齢の進行に伴う正常発達を踏まえた上で、小児の姿勢発達・運動発達を中心に、その変化を的確に捉えられるように学習する。そして、脳性小児麻痺や遺伝に伴う疾患を始めとする小児患者の特徴について、また、児童を取り巻く家庭や社会の多様な問題点を考慮しながら、その理学療法について学習する。また、小児の治療に特徴的なファシリテーションテクニックについても学ぶ。 (オムニバス方式／全8回) (⑦田代千恵美／4回) 小児の姿勢発達・運動発達について (／4回) 早期リハ・治療技術・家族療育指導について	オムニバス方式
	理学療法技術論D (神経筋疾患)	神経筋疾患の理学療法が行えるようになるため、必要な知識を身につけることを目的とする。具体的には、理学療法の対象として頻度の高いパーキンソン病、ギランバレー症候群、進行性筋ジストロフィー症、筋萎縮性側索硬化症、重症筋無力症などの難病、神経・筋障害の病態、及びこれらに係る検査・測定法、評価法、理学療法治療法について、系統的に学習する。また、疾患の急性期から慢性期まで、経過を追って理解する。更に、進行性疾患や難病患者の心理的問題や社会制度にも触れ、総合的な対応ができるように学習する。	
	理学療法技術論E (循環器・代謝系)	循環器・代謝系疾患の理学療法が行えるようになるため、必要な知識を身につけることを目的とする。具体的には、生活習慣病患者の増加とともに急増している狭心症や心筋梗塞を始めとする循環器系疾患、糖尿病などの代謝系疾患の理学療法について学ぶ。これらの疾患は、理学療法中に生命にかかわる場合もあり、正しい知識の習得が重要である。そのため、病態の理解、測定・検査法と評価法、目標設定と理学療法の治療計画、リスク管理、治療効果など、理学療法の基本原則と理学療法の流れを身につける。更に、患者が速やかに社会復帰できるような治療支援の方法について学習する。	
	理学療法技術論F (呼吸器系)	呼吸器系の理学療法が行えるようになるため、必要な知識を身につけることを目的とする。具体的には、小児の呼吸器障害から加齢に伴う高齢者の呼吸器障害、また、外傷後の呼吸器障害などの基礎知識、病態を理解した上で、測定・検査法と評価法、目標設定と理学療法の治療計画、リスク管理、治療効果など、理学療法の基本原則と理学療法の流れを学ぶ。更に、年齢特性に配慮しながら、急性期の治療から、患者が速やかに、学校や社会に復帰できるような治療支援の方法について学習する。	
	運動療法A (基礎運動療法)	運動療法を適切に行うため、基礎的な知識と技術を習得することを目的とする。運動療法は各種の疾患によって障害を受けた身体機能の回復のために、運動を科学的に用いる治療法で、医学的リハビリテーションの中核的な治療法として発展してきた。総論として、運動療法に関する、定義、歴史、対象、理論、種類、機器について学ぶ。さらに、各論として、各種運動療法(関節可動域練習、筋力増強・持久力増大・協調性改善練習、機能動作練習)の理論と技術を学習する。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 理学療法治療学	運動療法B (病態運動療法)	運動障害の治療の科学的根拠となる病態運動療法学について、学ぶことを目的とする。基礎運動療法学で学んだ人間の運動遂行に関与する力学的要素をはじめ、生理学的要素、心理学的要素等に基づいて、運動障害を分析する能力を身につける。病態運動療法学は、理学療法に科学的根拠を与えるものであり、すでに学んだ解剖学、生理学、運動学などをさらに発展させて統合し、臨床における諸現象をより実践的に理解する。	
	運動療法C (運動器系運動療法)	リウマチなどの運動器疾患の理学療法が行えるようになるため、必要な技術を身につけることを目的とする。具体的には骨折、リウマチ、関節炎などの整形外科疾患並びに熱傷に関して、治療原理と治療手技について実技を交えて学習する。各疾患の急性期・回復期・慢性期における、リスク管理、治療アプローチはそれぞれ異なっているため、実際の臨床の場面で、各疾患の患者の状態に合わせ、治療アプローチを選択し、実施できる技術を身につけ、患者を指導できるようになることを目標に学習する。	
	運動療法D (外傷性疾患運動療法)	脊髄損傷などの外傷性運動器疾患の理学療法が行えるようになるため、必要な技術を身につけることを目的とする。具体的には、脊髄損傷、切断の整形外科疾患に関して、治療原理と治療手技について実技を交えて学習する。各疾患の急性期・回復期・慢性期における、リスク管理、治療アプローチはそれぞれ異なっているため、実際の臨床の場面で各疾患の患者の状態に合わせ、治療アプローチを選択し、実施できる技術を身につけ、患者を指導できるように学習する。	
	運動療法E (中枢神経系運動療法)	脳卒中を始めとした中枢神経疾患の理学療法が行えるようになるため、必要な技術を身につけることを目的とする。具体的には、脳血管障害、パーキンソン病、神経難病に関して、治療原理と治療手技について実技を交えて学習する。各疾患の急性期・回復期・慢性期における、リスク管理、治療アプローチはそれぞれ異なっているため、実際の臨床の場面で各疾患の患者の状態に合わせ、治療アプローチを選択し、実施できる技術を身につけ、患者を指導できるように学習する。	
	日常生活活動学 (理学療法)	対象者の日常生活動作訓練が実施出来るようになるため、必要な知識を身につけることを目的とする。具体的内容として、摂食活動、排泄活動、入浴・整容活動、コミュニケーション活動の意義、評価の方法、指導法について学ぶ。臨床場面での評価を行うにあたっては観察の視点、機能レベルとの関連性、即ち行動上の問題の原因の確認等を結び付けられるように学習する。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	日常生活活動学演習 (理学療法)	対象者の日常生活動作訓練が実施出来るようになるため、必要な技術を身につけることを目的とする。対象者を援助するために「日常生活活動学」で学んだことを基に、疾患による特性を理解しながら、各疾患別の評価から各障害に応じた訓練法、指導法、福祉用具の適応、生産的活動や遊び余暇までを網羅した生活現場の調整等について学習する。演習ではシミュレーション場面を用いて実際の訓練、指導について学習する。 (オムニバス方式／全30回) (5 有馬慶美／9回) 日常生活活動学概論・中枢疾患について。 (13 小島基永／13回) 整形疾患・福祉用具関係について。 (12 松本直人／8回) 小児疾患・内部障害疾患について・まとめ。	オムニバス方式
	物理療法学	理学療法の一手段である物理療法が行えるようになるため、必要な知識を身につけることを目的とする。具体的には、物理療法の定義及び分類、リハビリテーションにおける位置づけを学習した後、①熱の物理学及び生理学、②皮膚の構造と痛みのメカニズム、③水の特性と寒冷による生理的反応、④極超短波療法及び超短波療法、⑤光線療法、⑥湿熱及び乾熱治療、⑦寒冷療法、⑧超音波療法、⑨水治療法、⑩牽引療法について学習する。	
	物理療法学演習	理学療法の一手段である物理療法が行えるようになるため、治療法を身につけることを目的とする。具体的には、各種治療機器の原理、安全管理、メンテナンス、疾患に対する機器の選択、患者への治療方法を学ぶ。その上でさらに、①極超短波療法及び超短波療法、②光線療法（赤外線・レーザー）、③湿熱及び乾熱治療（ホットパック・渦流浴・パルフィン浴などの温熱療法）、④寒冷療法、⑤超音波療法、⑥水治療法、⑦牽引療法（頸椎・腰椎）について、臨床現場と同じ機器を用いて実践的に学習する。	
	義肢学 (理学療法)	義肢について総合的に学習し、断端、及び装着訓練が実施できるようになることを目的とする。具体的には、総論として、義肢の定義、歴史、目的、最近の動向を学習する。各論では、義肢の種類、構造、機能材料、製作過程、適合判定、股義足、大腿義足、膝義足、下腿義足、足部義足、義手等について学習する。更に、義肢の構造理解ができた上で、切断の理学療法として、切断術と術前術後断端管理方法、義肢の装着訓練方法、義肢での動作訓練法を学習する。	演習21時間 講義9時間
	装具学 (理学療法)	装具について総合的に学習し、装着及び基本的な装具の制作が出来ることを目的とする。具体的には、総論として、装具の定義、歴史、目的、最近の動向を学習する。各論では、上肢・手指・下肢・体幹装具・自助具・歩行補助具について、構造、機能材料、製作過程、適合判定について学習する。また、簡易な装具・自助具については、対象者に合わせて作製できるように、その手法を学ぶ。装具の構造理解ができた上で、装具の装着訓練方法、装具使用での動作訓練法を学習する。	演習21時間 講義9時間

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	地域リハビリテーション学	超高齢社会の進行などに伴って、リハビリテーションを必要とする高齢者や障害のある人が住みなれた地域で、そこに住む人々と関わりながら生活ができるように支援するための地域でのリハビリテーションサービスについて理解することを目的とする。具体的には、高齢者や障害のある人が自宅で生活するために、地域の行政や老人保健法及び介護保険法・障害者自立支援法などを活用した医療や保健、福祉におけるリハビリテーションによる支援の在り方について学習する。 (オムニバス方式/全15回) (13 小島基永/5回) 地域リハビリテーション概論。 (1 古井智晴/4回) ケアマネジメントについて。 (24 上原栄一郎/3回) 精神障害者の地域支援について。 (2 幸福秀和/3回) 発達障害者の地域支援について。	オムニバス方式
	地域の保健医療福祉	多摩市における保健医療福祉政策と取り組みの状況を理解し、社会生活との関連において政策の果たす役割と機能を学習する。また、多摩市の医療及び福祉の現場における現状、問題点への取り組みについても学習し、地域の保健医療福祉を理解する力を身につける。 (オムニバス方式/全8回) (66 曾我好男/5回) 多摩市における保健・医療・福祉行政と現状について。 (67 佐藤秀紀/2回) 多摩市の医療の実態と今後の課題。 (1 古井智晴/1回) 地域の保健・医療・福祉についてのまとめ。	オムニバス方式
	地域理学療法学	地域リハビリテーションの分野で理学療法が実施できるための実践的な支援についての方法を身に付けることを目的とする。具体的には、地域リハビリテーション学で学んだ地域での基本的支援を基に、理学療法士として、対象者を生活者としてとらえ、心身の機能を把握した上で、その人に合った方法や必要なサービスをどのようにコーディネートしていくかを理解する。そのために包括的な視点から理学療法のあり方を捉え、問題解決指向型の学習により身に付ける。	
	地域理学療法学演習	地域における理学療法士の役割とニーズを探索し、新しい職域の開拓に繋げることを目的とする。具体的には地域包括支援センター、デイケア施設、デイサービス施設、認知症デイケア施設、訪問看護ステーション、グループホーム、障害児施設、企業などの現状を幅広く取材し、理学療法士の地域での活動状況と求められる人材像を把握して、職業意識を高めるとともに、自ら職域の開拓に努める。	
	臨床見学体験実習 (理学療法)	臨床見学体験実習は、1年次と2年次前期までに学習した、理学療法に関する基礎的な知識を基に、臨床実習施設において、実習指導者の指導・監督の下で、見学を通して実習施設の役割と機能を学ぶとともに、理学療法の業務に補助的に関わることを体験する。この体験を通して、「人に優しく」対応できる心を育むとともに、スタッフや対象者とのコミュニケーションを図り、専門職としての目的意識のもとに、基本的態度を身につける。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目	臨床 実習 評価実習 (理学療法)	評価実習は、3年前期までに学習した検査・測定及び評価に関する知識・技術を基に、臨床実習施設において、実践的な対象者の理学療法計画が立案できるようになるための評価能力を身につけることを目的とする。具体的には、学内で講義・演習により習得した評価についての知識・技術を、実習指導者の指導・監督の下で実際の対象者に対し適用して理学療法評価を実施する。また、この評価実習では、対象者の情報収集や記録・報告を通して、対象者の全体像を把握して問題点を抽出することも含まれる。更に、対象者の立場を理解し、「人に優しい」心での対応を実践する。	
	総合臨床実習 (理学療法)	総合臨床実習は、3年次までに学習して得た幅広い教養から専門の知識及び技術の集大成として、臨床実習施設において、対象者の評価から治療実施までの一連の理学療法過程を実践的に行うことにより、評価、治療及び効果判定までを確実に身につける。この総合臨床実習でも、対象者の立場を更に理解し、「人に優しい」心での対応を確実に身につける。	
	卒業 研究 卒業研究 (理学療法)	卒業後、生涯に亘って最新の知識と技術を求めて学習するという意欲と理学療法に関する課題を見出して探求し、研究するという心構えを身につけることを目的とする。具体的には、理学療法の実践を通して疑問や興味を持ったことを研究テーマにして、研究計画の策定から実施、論文の作成、発表までの一連のプロセスを学習する。	

授業科目の概要 (保健医療学部リハビリテーション学科作業療法学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
特色 科目	大学導入論	本学が育成しようとする医療専門職の人材像を理解し、その職業を目指しての学習意欲と、専門職としての生涯学習の大切さを意識付けすることを目的とする。このため、建学の精神及び教育理念についての学習及び病院・介護施設等の見学を通して保健医療の専門職としての人材像を理解するとともにチーム医療を意識付け、また、生涯にわたって学習することの必要性を認識する。 (オムニバス方式/全8回) (1 佐久間康夫/1回) 建学の精神と教育理念について。 (11 金子誠喜/2回) 専門職の職業とチーム医療の内容について。 (2 幸福秀和/2回) 生涯学び続けることの必要性について。 (⑤ 浅沼辰志、⑧ 山口育子/3回) 病院・介護施設等の見学を通じた保健医療専門職の人材像の理解やチーム医療の意識付け。	オムニバス方式 講義9時間 実習6時間
	ボランティア入門	ボランティア活動(実習)を通して、本学の建学の精神である「人に優しく、社会貢献」の精神を身につけることを目的とする。具体的には、ボランティア活動を通して社会奉仕の大切さを学び、地域の様々な人との触れ合いの中で人への優しさや思いやりの心を育むとともに、コミュニケーション能力の基礎を身につける。実施に当たっては、実践の在り方などに関する講義を受けた後、多摩市社会福祉協議会の協力により、当該協会に加盟するボランティア団体等の活動に参加する。ボランティア活動後には、ボランティア活動を通して感じたことを報告会で発表する。	実習41時間 講義4時間
	生命倫理	現代社会における生命に関する倫理的諸問題を理解して、保健医療に携わる者として命の尊さなど基本的な倫理観を身につけることを目的とする。具体的には、脳死、臓器移植、安楽死・尊厳死、末期医療などの人の生命に関わる倫理的課題について、宗教・哲学・死生学・法学・医学などの幅広い側面から学習する。 (オムニバス方式/全15回) (26 田口博子/3回) 宗教の側面から学習。 (25 宮嶋俊一/6回) 哲学・死生学の側面から学習。 (27 松崎 勝/3回) 法学の側面から学習。 (3 武田淳史/3回) 医学の側面から学習。	オムニバス方式

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目	人間の社会		
	学びの技法	充実した大学生活を送るためのスタディスキル及びチューデントスキルを身につけることを目的とする。具体的には、大学におけるスタディスキルである履修科目、授業科目、授業時間、時間割、シラバスへの対応などの学習方法、レポートや文書・書類の書き方、図書館の利用法、プレゼンテーション技術・情報管理等について学習する。また、チューデントスキルとしての時間管理や学習習慣、健康、社会生活等について学習する。 (オムニバス方式/全8回) (28 岡田守弘/1回) 大学生としての学習の心構えについて。 (4 近藤照彦/4回) 大学でのスタディスキルについて。 (4 近藤照彦/1回) 健康管理とキャンパスライフについて。 (28 岡田守弘/2回) 時間管理や学習習慣、大学人としての社会生活について。	オムニバス方式
	教育学	教育の名の下に行われるあらゆる教育実践において生じている臨床的諸問題の予防と対処を目的としている心理・教育的援助サービスの意義と効用、さらには限界について理解することを目的とする。学校に限らず医療・福祉・企業・地域社会・家庭等における教育実践が、社会・文化の急激な多様化に伴って危機的状況にあると指摘されている。「教育とは何か」を認識するとともに、危機的状況の発生する機序が人と環境との相互作用によってもたらされることを理解し、その解決の在り方について学ぶ。	
	心理学概論	心理学の客観的で普遍的、ないし個別的法則または原理を身につけることを目的とする。具体的には、生理的・生物学的基礎、学習、動機付けなど、人間が生きていることを支えている適応のメカニズムについて学ぶ。そして、人間の示す多くの生活活動が、生理的・身体的欲求の充足や理想の実現といった価値的欲求の充足を目指すことなど、人間の示す幅広い目標指向性について学ぶ。また、心理学は“行動”と“心的過程”を研究するため、対象者への対処方法(観察・実験・調査等)についても学ぶ。	
	人間発達学	人間の発達を身体・心理・社会などの各側面から理解することを目的としている。そのために、人間が生まれてから青年前期までを中心に、その成長・発達を、身体機能、心理機能、及び社会的機能の各側面から学習する。また、青年後期以降の各ライフステージにおける人間発達の概要についても学習する。	
	老年学	健康な高齢者や障害のある高齢者がQOLの維持、向上を図るために、幅広い視点から支援していくための知識を身につけることを目的とする。従来、老年学は老化のメカニズムや障害高齢者を対象に介護・看護・医療を中心とする学問分野であった。しかし超高齢社会を迎えている現在、大多数の高齢者は自立しており、生涯発達の視点も含めて、これらの高齢者が廃用症候群や認知症を予防し、地域での生活を継続するための対策について学習する。	
	法学入門	大学人あるいは社会人として必要な、社会における行動規範とその対応を理解することを目的とする。社会生活の基本である日本国憲法を始め、人権や社会生活に関わる法律問題について学習する。具体的には、人権やコンプライアンス、個人情報保護法、民法、刑法などの基本的な社会規範を学習する。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間と社会 教養科目 科学的思考	歴史郷土学	地域における保健医療に携わる専門職には、地域の一員として地域に根付く歴史や文化を理解した上で行動することの大切さを認識することが必要である。このため、本学のある多摩地区を中心に、江戸時代から今日に至るまでの歴史、文化についての学習を通して地域文化に対する理解力を身につける。	
	情報処理（基礎）	大学での学習においてコンピュータや情報通信ネットワークを活用して、自ら情報を収集、処理し、発信するために必要となる基礎的な知識と技能の習得を目的とする。このため、情報理論の基礎、コンピュータ、ネットワーク、ソフトウェアについて理解し、文書処理、プレゼンテーション資料作成、表計算におけるアルゴリズムの理解からプログラムへの展開など、問題解決できるよう学習する。	
	情報処理（応用）	高度な専門性をもった医療専門職を目指す者として必要となる情報処理能力の習得を目的とする。具体的には、レポートや学術論文を作成するための文書処理能力、統計処理のアルゴリズムを理解して表計算ソフトウェア上でプログラミングできる能力、多様なソフトウェアを有機的に利用し情報を統合、整理し、効果的にプレゼンテーションできる能力を学習する。さらに、医療情報や個人情報の保護についても学習する。	
	環境科学	CO ₂ の削減など、緊急な課題となっている地球温暖化をテーマに、その原因と対策について科学的に理解することを目的とする。具体的には、地球温暖化の原因を探り、身近で実践できる具体的な対策に関して学習する。	
	生命科学入門	保健医療専門職を目指す者として、人間を含む生物の営む生命活動について学び、学生への生命への興味を促すことを目的とする。具体的には、生命の起源・恒常性維持・性と生殖・再生医療について、講義を通して生命の概念を理解することを目的とする。また、生命科学が我々の日常の中でどのように応用されているかについても学習する。 （オムニバス方式／全8回） （33 廣瀬 肇／2回）生命の起源について。 （34 岡野ジェイムス洋尚／3回）再生医療について。 （35 船橋利也／3回）恒常性維持・生殖・遺伝について。	オムニバス方式
	行動科学	行動科学とは人の行動を総合的に解明し、予測・統御しようとする実証的経験科学である。行動科学の研究成果は、医療分野で数多く導入されてきた。利用者・患者の受療行動を促すうえでも、医療従事者の医療行動を改善するうえでも、行動科学の研究成果は欠かせないものとなっている。本授業では利用者・患者行動と医療従事者行動の両方を取り上げながら、講義と演習を通して実践的な援助技術を身につけていく。	
	自然科学概論	専門基礎科目の「解剖学」、「生理学」、「運動学」を学ぶには、基礎学力として高校の「物理1」、「生物1」、「化学1」の知識が必要であるが、高校でこの3科目全部を履修している学生は少ない。このため、「物理1」、「生物1」、「化学1」の中から必要な内容について学習し、専門基礎科目の学習が円滑に進められるようにするとともに、学生の学習意欲を高める。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目	科学的思考	物理学の基礎的なものの見方や理解の方法を身につけることを目的とする。身体運動に関与する力は、重力、外力、筋収縮で発生する張力、摩擦力等である。筋と関節の構造は機械系のデコ構造に類似し、関わる力は力学的分析で説明される。生体の姿勢や運動を理解するためにニュートン力学を学ぶ。また、治療に用いられる温熱療法、電気療法、水治療法等を理解するための基礎となる熱の作用、流体力学、電気と磁気等の基礎を学ぶ。	
		臨床的調査や実験で得られた各種データを解析するために必要な統計学的手法を身につけることを目的とする。ヒストグラムの意義と作成、確率の概念、確率分布、標本分布、母平均、分散の推定、母平均の信頼区間、仮説検定、単回帰分析、重回帰分析等の意義と手法を学習する。	講義21時間 演習8時間
		高齢社会を視野に入れて、高齢者の体力作り、健康維持などの方策としてのスポーツの在り方について、また様々な年齢でおこるスポーツによる損傷とその予防策について理解することを目的とする。具体的には、運動中の生体のメカニズム、運動中のエネルギー供給のメカニズム、トレーニングによる生体の変化について理解する。その上で、運動処方、コンディショニングの理論と方法を学習する。	
		障害者や高齢者が自立生活を営むために必要な福祉用具や生活環境のあり方について理解することを目的とする。そのために、生活環境のあり方について、福祉工学的アプローチに基づく調査あるいは実験的な種々の取り組みについて、また、福祉用具や、生活環境整備の根底にある、ものづくりに対する設計について学習する。	演習21時間 講義9時間
	コミュニケーション・英語	医療者間のコミュニケーションは、“チーム医療”の成否を左右することになり、また、患者とのコミュニケーションは、治療効果や患者満足度に大きな影響を与える。そのために、医療の専門家を目指す学生はコミュニケーションを一般的な知識としてではなく、実践的な技術として身につけてはならない。本授業では講義による知識学習ではなく、演習による技術学習を中心にして、実践的なコミュニケーション能力を身につけていく。	
		障害者ばかりでなく地域、学校などにおけるカウンセリングの必要性などについて総合的に理解することを目的とする。具体的には、人の内面を理解するための、言語的方法によるカウンセリングの諸理論、及びその技法の基本を学習する。	
		社会で求められる言語によるコミュニケーション能力の基礎・基本を身につけることがこの科目の目的である。音声によるコミュニケーションに必要な聴く力と、人に伝えるために必要な表現する力を体験を通して学ぶ。また、文字によるコミュニケーションの基盤となるクリティカルな思考力と、内容を正確に伝えたり説明したりするうえで必要な表現する力を身に付ける。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目	コミュニケーション・英語	英語（基礎）	高校で学んだ基礎的事項を発展させ、言語の4技能である「話す」「聞く」「読む」「書く」を総合的に習得することを目的とする。日常生活における基礎的な会話の習得や英語を聞き取る力を養う（「話す」「聞く」）とともに、基礎レベルの英語文献を理解するために必要となる読解力・文法力、及び語彙力の強化を図り、短い英文からパラグラフの書き方まで、英文を構成する基礎的な英語力を身につける。	
		英語（英会話）	英語（基礎）において学んだ知識を基に、基本的な日常会話表現に慣れるとともに、外国人とのやり取りを想定したロールプレイング演習を通して日常的な会話場面でのコミュニケーションをとるために英語を学ぶことを目的とする。さらに、発音やアクセントなどにも注意を払いながら、英語によるプレゼンテーションやスピーチの基礎を学び、幅広い話題について「発信」できる能力を身につける。	
		保健医療英語入門	リハビリテーションを実施する上で必要な、保健医療に関する英語を習得することを目的とする。具体的には、専門用語の内容が説明でき、患者との簡単な英会話の内容を理解し、質疑応答ができること、またカルテ（診療記録）の読み方、略語の意味を習得する。さらに、外国人医療従事者との英語によるコミュニケーションが図られ、英語で円滑な業務が行えることを目指して学習する。	
		保健医療英語講読	保健医療英語講読では自立的な英語学習能力を養うことを目的とする。そのため、健康・医療問題に焦点をおいたテキストを読み、内容を理解する能力を養いながら、幅広い医学用語・表現を習得する。さらに国際的な学術雑誌やデータベースに掲載されている内容を正確に理解する力を養う。インターネット等から各回のテーマに関連した最新の英語情報を収集し、レポートにまとめる等の課題を通して自ら課題を発見、設定しかつ発展させる自立的な学習を行う。	
	健康と社会	スポーツ・レクリエーション	スポーツやレクリエーションについて実践的に学ぶことを目的とする。具体的には、競技方法やレクリエーションを学び、実際に体育館や運動場においてスポーツやレクリエーションの実技も習得するとともに、学生の健康増進に努め、楽しみを分かち合いながらチームワークを学ぶ。	
		東洋手技療法入門	本学の母体である常陽学園の精神的柱である「人に優しい」東洋医学の一つの治療手技である、あん摩について理解することを目的とする。具体的には、あん摩の歴史、理論、技法を学習する。また、非侵襲的な東洋医学の方法であり、リハビリテーションの技法にも通じる、あん摩を用いて、どのような触れ方がやさしいのか、痛いのか、不快なのか、などを感じることによって、「人に優しい」ということを体験的に学習する。	演習21時間 講義9時間
		栄養学	人間が生まれてから死ぬまでを、栄養学の観点から理解することを目的とする。そのために、五大栄養素の働き、栄養素と食品との関係、日本人の食事摂取基準と食生活、治療食の種類と分類、食生活と生活習慣病の関係について、また、ライフサイクルと栄養について学習する。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目	健康と社会 公衆衛生学	疾病の発生要因を広く社会との関連から追及し、その予防対策をたてる公衆衛生学について理解することを目的とする。具体的には、公衆衛生学の定義、衛生行政、公衆衛生の主要指標である人口動態や生命表などの見方を理解する。煙草やアルコールなどの健康阻害要因、保健対策や環境問題、労働衛生、また、各種の疾病の発生要因とその予防対策について学習する。 （オムニバス方式／全8回） （46 永原則之／3回）公衆衛生学の基本的知識と環境病及び高齢者保健について。 （47 北村勝彦／3回）疫学の基本的知識と学校保健及び成人保健について。 （48 千葉百子／2回）産業保健と国際保健について。	オムニバス方式
	医療安全管理	医療専門職として、事故や感染症の予防、発生時の速やかな対応、発生原因の分析ができるようになることを目的とする。医療現場における安心・安全の確保は、最も重要な課題である。しかし、医療や介護などの現場で事故は発生しており、現場で働く職員には、事故や感染症の予防のための、また、事故や感染症が発生した場合のマネジメント能力が求められている。具体的には、様々な事例を通して学習する。	
専門基礎科目	解剖学 （人体の構造）	人体の構造を理解するために必要な、身体各部の一般的な構造を理解することを目的とする。具体的には骨、筋、神経、消化器系、呼吸・循環器系、感覚器系等の一般的な構造、及び発生について学習する。	
	解剖学A演習 （運動器・神経系）	「解剖学」で学習したことを受けて、運動器・神経系の詳細な構造について、演習を中心に学習することを目的とする。具体的には、骨、関節、靭帯、筋、脳、脊髄、末梢神経等の構造、及び機能解剖学的視点から、各種模型、標本などを用いて学ぶ。これらの内容は、「基礎運動学」、「応用運動学」、「疾患と障害の成り立ち及び回復過程の促進」に関する科目群を学習する上での、基礎となる知識として身につける。	
	解剖学B演習 （内臓・脈管系）	「解剖学」で学習したことを受けて、内臓・脈管系の詳細な構造について、演習を中心に学習することを目的とする。具体的には消化器系、呼吸・循環器系、感覚器系等の構造について各種模型、標本、などを用いて学ぶ。これらの内容は、「疾患と障害の成り立ち及び回復過程の促進」に関する科目群を学習する上での、基礎となる知識として身につける。	
	生理学	人体の生理的機能を理解することを目的とする。具体的には、動物系機能として、細胞生理学、興奮の伝達、筋の収縮などについて、また、植物系機能として、感覚機能、血液、呼吸・循環、代謝、内分泌、生殖などについて学習する。	
	生理学演習	「生理学」で学習したことを受けて、人体の機能について、演習を中心に学習することを目的とする。具体的には、模型や標本の観察、学生同士での各種測定や、反射・反応の観察などを通じて学ぶ。これらの内容は「疾患と障害の成り立ち及び回復過程の促進」に関する科目群を学習する上での基礎となる知識として身につける。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎科目	人体の構造と機能	生理学実習	本実習は、生きた材料を用いて生理現象を理解することを目的とする。具体的には、実験の方法、実験用の機器・器具の扱い方、作動原理を実習を通して学習する。また、骨格筋の収縮や神経の活動電位の記録等について、生きた材料を用いて実験を行い、実験データの処理についても学習する。
		運動学	「運動」を多角的に捉えるための基礎知識を身につけることを目的とする。具体的には、骨、筋、関節、神経など、運動器と感覚器の構造と機能を解剖学的、生理学的に踏まえ、四肢・体幹の骨の構造と運動、筋の力学的特性と運動、関節構造と運動、神経機構と運動、神経学的反射機構と運動能力の関係、呼吸循環器機能と運動などについて学ぶ。更に、姿勢制御理論、運動制御理論、運動学習理論などを学ぶ。
		運動学演習	身体運動の全体から、筋や神経を始めとする個々の機能や関連が理解できるようになるための基礎的能力を演習を通じて身につけることを目的とする。具体的には、運動学で学んだ、運動、動作、姿勢の分析方法などの知識を基に、障害者と健常者の身体運動のうち、歩行動作や基本的動作について、骨、筋、関節、神経的に、観察し分析する方法を学習し、運動機能回復、介護予防や転倒予防などへの応用のための基礎となる知識として身につける。
		運動学実習	機器を用いて対象者を分析し、理解するための基礎的な能力を身につけることを目的とする。本実習では正常な人間の運動を、観察や計測機器を用いて確認し、記録し、解析するという一連のプロセスを通して運動学の実験的方法を学習する。具体的には、筋骨格と関節運動、静止姿勢、姿勢の変換、手の動作、上肢の動作、歩行などについて実習を行い、データの読み方や解釈について学習する。
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	臨床心理学	対象者を理解するための枠組みの一つとして、臨床心理学に関する知識を習得することを目的とする。臨床心理学は心理学の中でもその人の心の悩みや葛藤について理解し、援助を行う実践的な学問である。臨床心理学の位置づけ、定義、概念、心理機制、対象疾患等について学んだ後に、心理検査、心理療法を中心に臨床場面での心理学の手法について学習する。
		病理学概論	病理学は、疾病と症候の意義と分類、病因となる内因と外因を踏まえ、退行性病変、循環障害、進行性病変、炎症、免疫疾患、アレルギー疾患、腫瘍、先天異常などに含まれる主要疾患について理解することを目的とする。具体的には疾病の原因、経過、本態、他疾患との鑑別、治療効果などについて細胞、組織、臓器などの形態の変化の点から学ぶ。
		薬理学概論	薬剤の使用目的、効能、使用方法、禁忌事項などについて理解することを目的とする。具体的には、薬剤の使用目的については、疾患の原因を取り除く原因療法、体内に欠乏する物質を補う補充療法、疾患の原因を取り除くことができなくとも病気による不快な症状を取り除く対症療法、インフルエンザワクチンなどのような予防接種等について学習する。また、高血圧、糖尿病、精神病など、リハビリテーションの対象となる疾患のための薬物については、訓練との関係から禁忌事項などについても学習する。

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 専門基礎科目	内科学	内科の主要な疾患と、その治療などについて理解することを目的とする。具体的には、内科学診断法の概要、主要疾患の病態、病理、症状、理学的検査、生理検査、治療方法、予後などについて学習する。また、リスク管理との関連で、血圧、脈拍、呼吸などのバイタルサインの見方と意義、このほか心電図の読解、レントゲン写真の読影などについての基本的な事項を学習する。	
	外科学概論	外科の主要な疾患と、その治療などについて理解することを目的とする。具体的には、診断法及び手術方法の概要と経過、リハビリテーションの重要な課題の一つである外傷及び術後の創傷治癒過程における廃用症候群などについて学習する。	
	整形外科学	リハビリテーションの対象となることの多い整形外科疾患と、その治療などについて理解することを目的とする。具体的には、整形外科の対象となる骨・関節・筋・神経・軟部組織等の運動器に関する疾患や障害についての病態、病理、臨床症状、治療手技、予後等について、また、整形外科領域で汎用される義肢・装具について学習する。 (オムニバス方式/全15回) (52 濱田良機/8回) 整形外科学総論及び上肢の外傷・腫瘍・先天性疾患・リハビリテーション中の安全管理について。 (53 前川慎吾/2回) 脊柱の疾患と外傷及び軟部組織の損傷について。 (54 堀内忠一/2回) 変形性関節症及びリウマチなどの関節疾患について。 (55 杉山肇/3回) 骨疾患及び下肢の外傷について。	オムニバス方式
	神経内科学	神経内科疾患と、その治療などについて理解することを目的とする。具体的には、神経症候学の概要、及び主要な神経疾患である脳卒中、パーキンソン病などの神経疾患、筋ジストロフィーなどの筋疾患、難病等のリハビリテーションの対象となることの多い疾患について、病態、病理、症状、治療、予後等について学習する。	
	精神医学	精神疾患あるいは精神障害と、その治療などについて理解することを目的とする。具体的には、統合失調症、発達障害、認知症など精神科作業療法の他に身体障害作業療法の場においても治療対象となることが多い疾患の、病態、症状、治療法、予後について学習する。また、精神保健福祉に関する法制度や施策についてもその概要を学習する。	
	小児科学	小児疾患とその治療などについて、理解することを目的とする。具体的には、小児の成長・発達過程、及び小児リハビリテーションの対象となる脳性麻痺や知的障害、筋ジストロフィーなどの小児疾患の病態、症状、治療方法、予後について学習する。また、最近では、作業療法士が新生児ICU(NICU)で、あるいは退院後の経過観察の中で未熟児に接する機会が増加しているため、その評価、及び超早期療育、重症心身障害児の療育について学習する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 専門基礎科目 保健医療福祉とリハビリテーションの概念	脳神経外科学	脳神経外科疾患とその治療などについて、理解することを目的とする。具体的には、脳腫瘍、脳血管障害、頭部外傷、中枢神経系の奇形、水頭症、脊髄・脊椎腫瘍、椎間板ヘルニアなど、リハビリテーションの対象となることの多い疾患について、診断法及び手術方法の概要と経過等について学習する。	
	医用画像解析学概論	医用画像解析学概論では、実際の各種の画像と病態との結びつきを理解することを目的とする。具体的には、単純X線写真、断層X線写真、CTスキャン、MRI等の原理、画像の見方、及び所見から推測される病態について、また、核医学等の放射線治療学の概要について学習する。	
	言語聴覚学概論	言語聴覚士の業務内容と言語聴覚療法の基本的な考え方を理解することを目的とする。具体的には、リハビリテーションチームの一員である言語聴覚士との協業のあり方と、チーム医療の円滑化について学習する。また、脳血管障害に合併しやすい失語症や麻痺性構音障害を始めとした、言語聴覚障害の種類、病態、評価法、治療方法等の概要を学ぶ。	
	リハビリテーション概論	リハビリテーションの全体像を理解することを目的とする。具体的には、リハビリテーションの歴史的変遷、WHOが制定したリハビリテーションの定義、ノーマライゼーション、IL等の理念とリハビリテーションの4相（医学、教育、職業、社会）の意義などについて学習する。また、障害の国際分類（ICIDH、ICF）、障害に対するアプローチの内容、チーム医療の意義と関連職種の種類や役割について学習する。	
	リハビリテーション医学	リハビリテーション医学における診断法、治療法などについて理解することを目的とする。具体的には、リハビリテーションの対象となる疾患について、病態、症状、運動・感覚検査、心理、発達、日常生活活動などの各種の評価法や、筋電図・神経伝導速度測定、呼吸機能検査、運動負荷テストなどの臨床検査法、理学療法、作業療法、義肢装具療法などの治療概要、予後、及び復帰後の経過等について学習する。 （オムニバス方式／全8回） （6 鴨下博／4回）リハビリテーション医学の対象疾患と診断。 （8 落合幸勝／4回）リハビリテーション医学の治療法。	オムニバス方式
	リハビリテーションチームワーク概論	リハビリテーションは“チーム医療”であり、その医療を円滑に進めるための職種間の連携について理解することを目的とする。具体的には、医師を始めとしたリハビリテーション関連職種の個々の役割の概要と、職種間でオーバーラップする役割の部分について理解した上で、業務の流れの調整、クリニカルパスの運用、地域連携などの協業を円滑に進めるために必要なコミュニケーションシステムを始め種々のチームワークの技法を学習する。 （オムニバス方式／全8回） （1 吉井智晴／4回）職種ごとの役割と連携について。 （2 幸福秀和／4回）チームワークの概論と、その技法について。	オムニバス方式

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎科目	保健医療福祉とリハビリテーションの概念	社会福祉概論	社会福祉・介護の関連法規、制度について理解を深め、活用できることを目的とする。過去から、現在に至る高齢者、障害者の状況を知り、今後の課題を明らかにしていく。具体的には、障害者自立支援法、介護保険法など的高齢者や障害者に関連する法律的側面、及び現状のシステムのあり方について学習する。	
		保健医療制度概論	わが国の医療保険制度の全体像を理解することを目的とする。保健医療制度の歴史、制度の内容について理解し、国民の健康に寄与してきた医療保険制度の役割について学習する。	
専門科目	基礎作業療法学	作業療法学概論	作業療法の全体像を理解し、学習意欲を高めるとともに、対象者に適した作業療法を実施するために、生涯学習の必要性について認識することを目的とする。具体的には、作業療法の歴史、各種作業療法理論、作業療法士の働く場所、業務内容、また、個々の科目で学習する内容が、将来どこでどのように役立つようになるのかという位置づけを明らかにし、学習意欲を高めるとともに、作業療法の進展にともなう、生涯学習の必要性について理解する。また、障害者体験を通して、対象者の立場が理解できるように学習する。	
		基礎作業学概論	治療手段としての「作業」について理解することを目的とする。具体的には、作業療法における作業の利用の歴史、治療的意義、作業種目とその技法、作業分析の方法と作業の設定の考え方を学習する。	
		基礎作業学演習A (作業別技法)	作業療法の臨床で用いられる幅広い作業の種目別技法を身につけることを目的とする。対象者によって、また病期によって用いられる作業は様々であり、作業療法士は、数種類の核となる作業とともに、幅広く作業についての知識が必要であるため、木工、陶芸、絵画、各種手工芸等の作業療法で多く用いられる作業について、実際に作品を制作して制作方法を理解するとともに、その技術を身につけ、臨床で応用する能力を高める。	
		基礎作業学演習B (作業分析等)	作業療法において、作業を治療的に用いるための基礎能力を身につけることを目的とする。具体的には、「基礎作業学概論」で学習した作業分析の方法を基に、作業活動が人間に与える影響について、身体、心理、社会などの側面から作業分析を行って明らかにするとともに、いくつかの作業種目に関して、作業療法で治療的に応用する場合に必要な材料、工具、注意事項などの基礎知識、及び指導法について演習を通じて学習する。	
		作業療法学研究法	研究とは何か、研究へのアプローチと進め方はどのように行うか、研究成果はどのようにまとめるかなど、卒業研究に結びつくような作業療法の研究法について演習を中心に学習する。内容は、問題関心、研究課題設定の方法、先行研究の調査、作業療法における質的・量的研究方法などについて学習する。 (オムニバス方式／全15回) (12 里村恵子／8回) 研究の意義及び質的研究。 (21 内田達二／7回) 量的研究。	オムニバス方式

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎 作業 療法学 専門 科目	作業療法管理法	作業療法部門の管理運営、及び作業療法士としての人材像を理解することを目的とする。具体的には、作業療法部門の人事・予算・物品・部門開設などの管理運営に関する事項について学習し、また、臨床の現場で作業療法士に求められる高い倫理観や生涯学習の必要性について、日本作業療法士協会の倫理規定などに沿って学習する。	
	作業療法評価学A (身体)	身体障害領域の作業療法を行う上で必要な各種の検査・測定に基づく評価法、及び対象者の問題点や利点と、それらの相互関係を理解できるようになることを目的とする。具体的には、種々の身体機能評価法の基本的知識を学習し、身体機能と基本動作や日常生活動作の関連についても、国際生活機能分類に沿った整理、統合の方法をもとに学習する。	
	作業療法評価学A演習 (身体)	身体障害領域における評価技術、及び対象者に接するときの態度を身につけることを目的とする。具体的には、「作業療法評価学A(身体)」の内容を踏まえ、筋力、関節可動域、感覚を始めとした種々の評価方法、及び態度について演習を通じて身につける。併せて、事例を基に演習を行い、検査結果の解釈、国際生活機能分類に沿った整理、統合の方法について学習する。 (オムニバス方式／全15回) (2 幸福秀和／5回) 評価的態度、事例を通じて身体機能障害とICFに沿った整理統合演習。 (⑥ 浅沼辰志／10回) 各種評価法筋力、関節可動域などの測定方法演習。	オムニバス 方式
	作業療法評価学B (精神)	精神障害領域の作業療法を行う上で必要な各種検査・測定に基づく評価法、及び対象者の問題点や利点と、それらの相互関係を理解できるようになることを目的とする。具体的には、精神障害及び心理・社会的要因により作業遂行上の問題を抱えている対象者に対する評価方法の選択、評価の実施方法、結果の解釈と統合の枠組み、評価における様々な態度の取り方などについて学習する。	
	作業療法評価学B演習 (精神)	精神障害領域の作業療法を行うのに必要な評価技術、及び対象者に接するときの態度を身につけることを目的とする。具体的には、「作業療法評価学B(精神)」の内容を踏まえ、面接、観察、種々の検査・測定技法、様々な態度の取り方について、演習を通じて学習する。併せて、事例を基に演習を行い、結果の解釈と統合について学習する。	
	作業療法評価学C (発達)	発達障害領域の作業療法を行う上で必要な各種検査・測定に基づく評価法、及び対象児の問題点や利点と、それらの相互関係を理解できるようになることを目的とする。具体的には、人間発達学で学んだ正常発達の知識を整理するとともに、脳性麻痺を始めとした対象児の疾患及び障害像を踏まえ、各種の発達検査や、遊びの場面を通じた観察評価の方法などについて学習する。	
	作業療法評価学C演習 (発達)	発達障害領域の作業療法を行うのに必要な評価技術、及び対象児に接するときの態度を身につけることを目的とする。具体的には、各種の発達検査・観察評価の実施方法、及び対象児に接するときの態度について、演習を通じて学習する。併せて、事例を基に演習を行い、それらの結果の解釈と統合について学習する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	身体障害作業療法治療学1 (身体機能回復理論)	種々の疾患に共通する身体機能回復のための治療理論を理解することを目的とする。具体的には、障害の捉え方、評価から治療までの一連の流れ、及び種々の疾患に共通する筋力、関節可動域、協調性、感覚、全身の耐久性などの回復のための治療理論について学習する。 (オムニバス方式/全15回) (2 幸福秀和/4回) 身体機能回復のための理論と考え方。 (⑤ 浅沼辰志/11回) 筋力、関節可動域などの回復のための考え方。	オムニバス方式
	身体障害作業療法治療学2 (疾患別治療学)	中枢神経系疾患を始めとした各種疾患について、作業療法の方法を理解することを目的とする。具体的には、専門基礎科目で学習した、疾患についての知識を基に、脳血管障害、脊髄損傷、リウマチ、骨折、神経・筋疾患等の作業療法の治療原理、治療方法について学習する。 (オムニバス方式/全15回) (2 幸福秀和/10回) 中枢神経系疾患。 (⑤ 浅沼辰志/5回) 整形外科系疾患。	オムニバス方式
	身体障害作業療法治療学演習	身体障害の作業療法治療に関する技術、及び対象者に対応するときの態度を身につけることを目的とする。具体的には、身体障害作業療法治療学2(疾患別治療学)で学んだ内容を基に、ペーパープランニング、及び学生同士で治療実施に関する演習を行い、実践的な技術と態度を身につける。実践的能力の到達レベルを評価する目的で実技試験を実施する。	
	精神障害作業療法治療学1 (精神機能回復理論)	種々の疾患に共通する精神機能回復のための治療理論を理解することを目的とする。具体的には、障害の捉え方、評価から治療までの一連の流れ、及び陽性症状、陰性症状、気分障害など、種々の疾患に共通する精神機能回復のための治療理論、治療計画などについて学習する。	
	精神障害作業療法治療学2 (疾患別治療学)	精神障害分野の各種疾患に対して作業療法の方法を理解することを目的とする。具体的には、専門基礎科目で学習した疾患についての知識を基に、統合失調症、気分障害、アルコール依存症、人格障害等に対する作業療法の治療原理、治療方法を学習する。	
	精神障害作業療法治療学演習	精神障害の作業療法臨床における実践的な技術、及び対象者に接するときの態度を身につけることを目的とする。具体的には、疾患別にペーパープランニング等を通して、またレクリエーションやアクティビティを疾患別に考案し、学生間で治療実施に関する演習を行い、実践的な技術と態度を身につける。実践的能力の到達レベルを評価する目的で実技試験を実施する。	
	発達障害作業療法治療学1 (発達促進理論)	発達障害の作業療法に用いられる治療理論を理解することを目的とする。具体的には、発達障害の作業療法に用いられる代表的な治療理論(感覚統合・神経発達学的治療など)、及びその作業療法プログラムへの応用について学習する。同時に障害児の発達の特徴や障害の特性に合わせた援助方法についても学習する。 (オムニバス方式/8回) (2 幸福秀和/4回) 治療理論。 (20 三浦香織/4回) 治療プログラム。	オムニバス方式

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	発達障害作業療法治療学2 (疾患別治療学)	発達障害分野の各種疾患・障害に対する作業療法の方法を理解することを目的とする。具体的には、専門基礎科目で学習した疾患についての知識を基に、脳性麻痺、精神発達遅滞、重症心身障害、学習障害、広汎性発達障害、筋ジストロフィー等の疾患別の評価から治療の一連の流れ、治療理論、治療方法について学習する。	
	発達障害作業療法治療学演習	発達障害の作業療法臨床における実践的な技術、及び対象者に接するときの態度を身につけることを目的とする。具体的には、疾患別にペーパープランニング等を通して、またアクティビティを疾患別に考案し、学生間で治療に関する演習を行い、実践的な技能と態度を身につける。実践的能力の到達レベルを評価する目的で実技試験を実施する。	
	老年期作業療法治療学	高齢者のADL、QOLを支援するための作業療法の基礎的知識を身につけることを目的とする。具体的には、認知症、虚弱・障害高齢者などの老年期障害に対する作業療法を「機能回復訓練中心」の作業療法ではなく、日常生活に基づく「機能維持中心」の作業療法の側面から学習する。また、高齢者の健康とQOLを支えるための作業療法上の支援についても学習する。	
	老年期作業療法治療学演習	高齢者に対する作業療法が実施できるための技術を身につけることを目的とする。具体的には、認知症、虚弱・障害高齢者に対する作業療法及び廃用症候群についての対応、健康高齢者におけるヘルスプロモーションなどについて学び、プログラム立案及びその実施ができるように、学生同士で演習を通じて学習する。	
	高次脳機能障害作業療法治療学	高次脳機能障害に対する作業療法の基礎的知識を身につけることを目的とする。具体的には、高次脳機能障害の評価、治療原理について学ぶ。また、高次脳機能障害者の日常生活や作業・職業上の困難さについて学び、各種評価方法と治療の関連について理解を深める。	
	高次脳機能障害作業療法治療学演習	高次脳機能障害の作業療法が実施できるための技術を身につけることを目的とする。具体的には、高次脳機能障害のうち、失行・失認に対する作業療法のプログラム立案を、机上の症例で行った上で、その実施ができるように学生同士で演習を通じて学習する。	
	日常生活活動学 (作業療法)	障害児や障害者、高齢者などの日常生活動作の自立、あるいは、介助量の軽減に向けた支援の方法について学習することを目的とする。具体的には、ADLの概念と範囲、ADL評価の手法、車椅子、杖の構造、種類、処方について、また、疾患ごとに異なるADL障害の特殊性を知り、指導、及び訓練方法を学ぶ。また、在宅や施設で生活する高齢者・障害者の生活を支援するためには、適切な福祉用具の活用と住環境整備が必要不可欠であるため、障害のある人が自立的な生活や就労をするにあたって必要な福祉機器について、その種類、適応について学習する。	
	日常生活活動学演習 (作業療法)	日常生活動作の訓練、及び指導を行う能力を身につけることを目的とする。具体的には、障害者を想定して日常生活動作訓練・指導のプログラム立案と、学生同士での実施、住環境整備の具体案の作成、さらに、自助具作成や福祉機器の適用などについて、演習を通して学習する。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	作業治療学	義肢について総合的に学習し、断端、及び装着訓練が実施できるようになることを目的とする。具体的には、義肢の定義、歴史、目的、切断術と断端管理、切断の作業療法について学んだ後、義肢の種類、構造、機能、材料、製作過程、適合判定について、また、肩義手、上腕義手、前腕義手、筋電義手の装着訓練、操作訓練、及び義足について学習する。	演習21時間 講義9時間
		装具について総合的に学習し、装着及び基本的な装具の制作が出来ることを目的とする。具体的には、装具の定義、目的、原理などについて学んだ後、疾患や障害ごとの装具の種類、材料、製造過程、適合判定について学習する。熱可塑性プラスチックを用いた基本的なスプリントの製作能力を身につける。	演習21時間 講義9時間
		作業療法対象者が就労・職業復帰するための支援に関する基礎知識及び支援方法を身につけることを目的とする。具体的には、障害者の就労支援における制度面・雇用情勢など社会的な側面、作業療法士の役割と、評価・訓練方法について学習する。障害者の地域参加の観点からも学習する。 (オムニバス方式／15回) (2 幸福秀和／5回) 制度他。 (⑥ 浅沼辰志／10回) 各種評価法。	オムニバス方式
	地域作業療法学	超高齢社会の進行などに伴って、リハビリテーションを必要とする高齢者や障害のある人が住みなれた地域で、そこに住む人々と関わりながら生活ができるように支援するための地域でのリハビリテーションサービスについて理解することを目的とする。具体的には、高齢者や障害のある人が自宅で生活するために、地域の行政や老人保健法及び介護保険法・障害者自立支援法などを活用した医療や保健、福祉におけるリハビリテーションによる支援の在り方について学習する。 (オムニバス方式／全15回) (13 小島基永／5回) 地域リハビリテーション学概論。 (① 古井智晴／4回) ケアマネジメントについて。 (24 上原栄一郎／3回) 精神障害者の地域支援について。 (2 幸福秀和／3回) 発達障害者の地域支援について。	オムニバス方式
		多摩市における保健医療福祉政策と取り組みの状況を理解し、社会生活との関連において政策の果たす役割と機能を学習する。また、多摩市の医療及び福祉の現場における現状、問題点への取り組みについても学習し、地域の保健医療福祉を理解する力を身につける。 (オムニバス方式／全8回) (66 曾我好男／5回) 多摩市における保健・医療・福祉行政と現状について。 (67 佐藤秀紀／2回) 多摩市の医療の実態と今後の課題。 (① 古井智晴／1回) 地域の保健・医療・福祉についてのまとめ。	オムニバス方式

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	地域作業療法学	地域で作業療法が実施できるための課題解決、支援のプロセスを理解することを目的とする。具体的には、地域リハビリテーション学で学んだことを基本として、高齢者におけるリハビリテーション支援の必要性について、また、精神障害者に対する実践的な支援、発達障害児の特別支援教育における役割など地域でのリハビリテーション専門職の今日的課題について学ぶ。対象者の生活を地域で支えるための、マネジメントの方法について、問題解決指向型の学習により身につける。 (オムニバス方式／全8回) (21 内田達二／4回) 高齢者、全体総括。 (24 上原栄一郎／2回) 精神障害者の地域での作業療法。 (20 三浦香織／2回) 特別支援教育について。	オムニバス方式
	地域作業療法学演習	地域における作業療法士の役割とニーズを探索し、新しい職域の開拓に繋げることを目的とする。具体的には、地域包括支援センター、デイケア施設、デイサービス施設、認知症デイケア施設、訪問看護ステーション、グループホーム、障害児施設、障害者の作業所、企業などの現状を幅広く取材し、地域での作業療法士の活動状況と求められる人材像を把握して、職業意識を高めるとともに、自ら職域の開拓に努める。	
	臨床見学体験実習 (作業療法)	臨床見学体験実習は、1年次と2年前期までに学習した作業療法に関する基礎的な知識を基に、臨床実習施設において、実習指導者の指導・監督の下で、見学を通して実習施設の役割と機能を学ぶとともに、作業療法の業務に補助的に関わることを体験する。この体験を通して、「人に優しく」対応できる心を育むとともに、スタッフや対象者とのコミュニケーションを図り、専門職としての目的意識のもとに、基本的態度を身につける。	
	評価実習 (作業療法)	評価実習は、3年前期までに学習した検査・測定及び評価に関する知識・技術を基に、身体障害系、精神障害系の臨床実習施設において、実習指導者の指導・監督の下で実際の対象者に対して作業療法評価を実施する。また、この評価実習では、対象者の情報収集や記録・報告を通して、対象者の全体像を把握して問題点を抽出することも含まれる。更に、対象者の立場を理解し、「人に優しい」心での対応を実践する。	
	総合臨床実習 (作業療法)	総合臨床実習は、3年次までに学習して得た幅広い教養から専門の知識及び技術の集大成として、臨床実習施設において、実習指導者の指導・監督の下に、対象者の評価から治療実施までの一連の作業療法過程を実施する。この総合臨床実習でも、対象者の立場を更に理解し、「人に優しい」心での対応を確実に身につける。	
	卒業研究 (作業療法)	卒業後、生涯にわたって最新の知識と技術を求めて学習するという意欲と作業療法に関する課題を見出して探求し、研究するという心構えを身につけることを目的とする。具体的には、作業療法の実践を通して疑問や興味を持ったことを研究テーマにして、研究計画の策定から実施、論文の作成、発表までの一連のプロセスを学習する。	

教員名簿

学 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 （千円）	現（ 就 任 年 月 ） 職
1	学長	サクマ ヤスオ 佐久間 康夫 ＜平成24年4月＞		医学博士		日本医科大学大学院 医学研究科 システム生理学分野 教授 （平14.4）

教員の氏名等												
(保健医療学部リハビリテーション学科)												
調 査 番 号	専 任 等 区 分	職 位	フリガナ 氏名 < 就任(予定)年月 >	年 齢	保 有 学 位 等	月 額 基 本 給 (千円)	担当授業科目の名称	配 当 年 次	担 当 単 位 数	年 間 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係 る大学等 の職務に 従事する 週当たり 平均日数
1	専	教授 (学長)	サカマ ヤスオ 佐久間 康夫 < 平成24年4月 >		医学 博士		大学導入論※	1前	0.1	1	日本医科大学大学院 医学研究科 システム生理学分野 教授 (平14.4)	5日
							生理学	1後	4	2		
							生理学演習	2前	4	2		
							生理学実習	2後	2	2		
2	専	教授 (専攻長)	コウワケ ヒデカズ 幸福 秀和 < 平成24年4月 >		修士(教 育学)		大学導入論※	1前	0.3	1	算面学園福祉保育専門学校 学校長 (平21.4)	5日
							リハビリテーションチームワーク概論※	1後	0.5	1		
							作業療法学概論	1前	1	1		
							作業療法評価学A(身体)	2前	1	1		
							作業療法評価学A演習(身体)※	2後	0.3	1		
							身体障害作業療法治療学1(身体機能回復 理論)※	3前	0.5	1		
							身体障害作業療法治療学2(疾患別治療 学)※	3後	1.3	1		
							発達障害作業療法治療学1(発達促進理 論)※	3前	0.5	1		
							高次脳機能障害作業療法治療学	3前	1	1		
							高次脳機能障害作業療法治療学演習	3後	1	1		
							職業関連作業療法学※	3後	0.3	1		
							地域リハビリテーション学※	3後	0.4	1		
							臨床見身体験実習(作業療法)	2前	1	1		
							評価実習(作業療法)	3前	6	1		
							総合臨床実習(作業療法)	4前	16	1		
							卒業研究(作業療法)	4後	2	1		
3	専	教授 (学科長)	タケダ アツシ 武田 淳史 < 平成24年4月 >		医学 博士		生命倫理※	1後	0.4	1	学校法人常陽学園 大学設置準備室 (平23.3)	5日
							老年学	3前	2	1		
							病理学概論	2前	1	1		
							内科学	2後	2	1		
4	専	教授	ゴンドウ テルヒコ 近藤 照彦 < 平成24年4月 >		博士(医 学)		学びの技法※	1前	0.6	1	群馬パース大学 保健科学部理学療法学科 准教授 (平17.4)	5日
							スポーツ医学	1前	1	1		
							スポーツ・レクリエーション	1前	1	1		
							運動学	2前	2	1		
							運動学演習	2前	2	2		
							運動学実習	2後	2	2		
5	専	教授	アリマ ケイミ 有馬 慶美 < 平成26年4月 >		博士 (保健 学)		理学療法学研究法	3後	1	1	新潟保健医療専門学校 副校長 (平18.4)	5日
							理学療法管理法	4前	1	1		
							日常生活活動学演習(理学療法)※	3前	1.2	2		
							臨床見身体験実習(理学療法)	2前	1	1		
							評価実習(理学療法)	3前	6	1		
							総合臨床実習(理学療法)	4前	12	1		
							卒業研究(理学療法)	4後	2	1		

調査 番号	専任 等 区分	職位	フリガナ 氏名 < 就任(予定)年月 >	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単 位 数	年間 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係 る大学等 の職務に 従事する 週当たり 平均日数
6	専	教授	カモシタ ヒロシ 嶋下 博 < 平成26年4月 >		博士 (医学)		神経内科学	2後	2	1	財団法人東京都医療公社 多摩北部医療センター リハビリテーション科 部長 (平18.7)	5日
							リハビリテーション概論	1前	1	1		
							リハビリテーション医学※	3前	0.5	1		
7	専	教授	ワタナベ マサユキ 渡邊 雅幸 < 平成25年10月 >		医学 博士		精神医学	2後	2	1	昭和大学大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻修士課程 専任教授 (平19.4)	5日
							神経内科学	2後	2	1		
8	専	教授	オデアイ ユキカツ 落合 幸勝 (長谷 幸勝) < 平成24年4月 >		医学 博士		小児科学	2後	1	1	東京都立 北療育医療センター 院長 (平19.7)	5日
							リハビリテーション医学※	3前	0.5	1		
9	専	教授	ヨシモト マサミ 吉本 正美 < 平成24年4月 >		博士 (医学)		解剖学(人体の構造)	1後	4	2	日本医科大学 医学部解剖学(生体構造学) 講座 講師 (平11.10)	5日
							解剖学A演習(運動器・神経系)	2前	4	2		
							解剖学B演習(内臓・脈管系)	2後	4	2		
10	専	教授	カノウ マサカツ 加藤 昌克 < 平成24年4月 >		医学 博士		生理学	1後	4	2	日本医科大学 医学部医学科生理学講座シ ステム生理学 准教授 (平19.4)	5日
							生理学演習	2前	4	2		
							生理学実習	2後	2	2		
①	専	教授 (学部長)	カナコ セイキ 金子 誠喜 < 平成24年4月 >		博士 (工学)		大学導入論※	1前	0.3	1	首都大学東京大学院 人間健康科学研究科理学療 法科学城 教授 (平17.4)	5日
							理学療法学概論1(理学療法導入論)	1前	2	1		
							理学療法評価学C(障害別評価)	2後	1	1		
							理学療法評価学C演習(障害別評価)	2後	2	2		
							理学療法技術論D(神経筋疾患)	3後	2	1		
							運動療法B(病態運動療法)	3前	2	2		
							運動療法E(中枢神経系運動療法)	3後	2	2		
							臨床見身体験実習(理学療法)	2前	1	1		
							評価実習(理学療法)	3前	6	1		
							総合臨床実習(理学療法)	4前	12	1		
							卒業研究(理学療法)	4後	2	1		
12	専	教授	サトムラ ケイコ 里村 恵子 (里村 恵子) < 平成25年4月 >		医学 博士		作業療法学研究法※	3後	0.5	1	首都大学東京 健康福祉学部作業療法学科 教授 (平17.4)	5日
							作業療法管理法	3前	1	1		
							作業療法評価学B(精神)	2前	1	1		
							作業療法評価学B演習(精神)	2後	1	1		
							精神障害作業療法治療学1(精神機能回復 理論)	3前	2	1		
							精神障害作業療法治療学2(疾患別治療 学)	3後	2	1		
							精神障害作業療法治療学演習	3後	1	1		
							臨床見身体験実習(作業療法)	2前	1	1		
							評価実習(作業療法)	3前	6	1		
							総合臨床実習(作業療法)	4前	16	1		
							卒業研究(作業療法)	4後	2	1		

調査 番号	専任 等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単 位 数	年間 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係 る大学等 の職務に 従事する 週当たり 平均日数
13	専	教授	コジマ モトナガ 小島 基永 <平成26年4月>		博士(医 学)		理学療法技術論B(運動器系)	3前	2	1	東京都老人総合研究所 介護予防緊急対策室 常勤流動研究員係長 (平17.4)	5日
							運動療法C(運動器系運動療法)	3前	2	2		
							日常生活活動学演習(理学療法)※	3前	1.7	2		
							地域リハビリテーション学※	3後	0.7	1		
							地域理学療法学	3後	1	1		
							地域理学療法学演習	4後	1	1		
							臨床見身体験実習(理学療法)	2前	1	1		
							評価実習(理学療法)	3前	6	1		
							総合臨床実習(理学療法)	4前	12	1		
							卒業研究(理学療法)	4後	2	1		
14	専	准教授 (専攻長)	ヨシイ テハル 吉井 智晴 <平成24年4月>		修士(学 術)		ボランティア入門	1前	1	1	学校法人常陽学園 大学設置準備室 (平23.4)	5日
							リハビリテーションチームワーク概論※	1後	0.5	1		
							理学療法学概論2(理学療法トピックス)	4後	2	1		
							地域リハビリテーション学※	3後	0.5	1		
							地域の保健医療福祉※	1後	0.1	1		
							地域理学療法学演習	4後	1	1		
							臨床見身体験実習(理学療法)	2前	1	1		
							評価実習(理学療法)	3前	6	1		
							総合臨床実習(理学療法)	4前	12	1		
							卒業研究(理学療法)	4後	2	1		
16	専	准教授	ナカジマ カスミ 中島 香澄 <平成24年4月>		博士(医 学)		心理学概論	1前	2	1	ほづみ教育心理研究所付属 池袋カウンセリングセンター 副センター長 (平21.4)	5日
							カウンセリング入門	1後	2	2		
							臨床心理学	1後	2	2		
17	専	准教授	スズキ テルミ 鈴木 輝美 <平成25年4月>		修士(リ ハビリ テーシ ョン)		理学療法評価学A(四肢周径・バイタルサイン等評価)	1後	1	1	専門学校東京医療学院 理学療法学科 専任教員 (平19.2)	5日
							理学療法評価学A演習(四肢周径・バイタルサイン等評価)	1後	2	2		
							理学療法技術論B(循環器・代謝系)	3後	2	1		
							臨床見身体験実習(理学療法)	2前	1	1		
							評価実習(理学療法)	3前	6	1		
							総合臨床実習(理学療法)	4前	12	1		
							卒業研究(理学療法)	4後	2	1		

調査 番号	専任 等 区分	職位	フリガナ 氏名 < 就任(予定)年月 >	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単 位 数	年間 開講 数	現 職 (就任年月)	申請に係 る大学等 の職務に 従事する 週当たり 平均日数
③	専	准教授	ソネ コウキ 曽根 幸喜 < 平成24年4月 >		修士(体 育学)		理学療法評価学A(四肢周径・バイタルサイン等評価)	1後	1	1	専門学校 東京医療学院 理学療法学科 専任教員 (平23.4)	5日
							理学療法評価学A演習(四肢周径・バイタルサイン等評価)	1後	2	2		
							理学療法評価学B(関節可動域・筋力等評価)	2前	1	1		
							物理療法学	2前	2	1		
							物理療法学演習	2前	2	2		
							臨床見身体験実習(理学療法)	2前	1	1		
							評価実習(理学療法)	3前	6	1		
							総合臨床実習(理学療法)	4前	12	1		
							卒業研究(理学療法)	4後	2	1		
④	専	准教授	ウチダ マナブ 内田 学 < 平成24年4月 >		博士(保 健医療 学)		理学療法評価学C(障害別評価)	2後	1	1	健康科学大学健康科学部 理学療法学科 講師 (平20.4)	5日
							理学療法評価学C演習(障害別評価)	2後	2	2		
							理学療法技術論F(呼吸器系)	3後	2	1		
							地域理学療法学演習	4後	1	1		
							臨床見身体験実習(理学療法)	2前	1	1		
							評価実習(理学療法)	3前	6	1		
							総合臨床実習(理学療法)	4前	12	1		
							卒業研究(理学療法)	4後	2	1		
⑤	専	講師	アサヌマ タツシ 浅沼 辰志 (安達 辰志) < 平成24年4月 >		修士 (老年 学)		大学導入論※	1前	0.4	1	学校法人常陽学園 大学設置準備室 (平23.4)	5日
							基礎作業学概論	1後	1	1		
							基礎作業学演習A(作業別技法)	1後	1	1		
							基礎作業学演習B(作業分析等)	2前	1	1		
							作業療法評価学A演習(身体)※	2後	0.7	1		
							身体障害作業療法治療学I(身体機能回復理論)※	3前	1.5	1		
							身体障害作業療法治療学2(疾患別治療学)※	3後	0.7	1		
							身体障害作業療法治療学演習	3後	1	1		
							老年期作業療法治療学演習	3前	1	1		
							職業関連作業療法学※	3後	0.7	1		
							臨床見身体験実習(作業療法)	2前	1	1		
							評価実習(作業療法)	3前	6	1		
							総合臨床実習(作業療法)	4前	16	1		
							卒業研究(作業療法)	4後	2	1		

調 査 番 号	専 任 等 区 分	職 位	フリガナ 氏名 < 就任(予定)年月 >	年 齢	保 有 学 位 等	月 額 基 本 給 (千円)	担当授業科目の名称	配 当 年 次	担 当 単 位 数	年 間 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係 る大学等 の職務に 従事する 週当たり 平均日数
20	専	講師	ミウラ カオリ 三浦 香織 < 平成24年4月 >		修士(心 理学)		人間発達学	1後	2	1	首都大学東京大学院 人間健康科学研究科 作業療法科学城 准教授 (平18.4)	5日
							作業療法評価学C(発達)	2前	1	1		
							作業療法評価学C(発達)演習(発達)	2後	1	1		
							発達障害作業療法治療学1(発達促進理 論)※	3前	0.5	1		
							発達障害作業療法治療学2(疾患別治療 学)	3後	1	1		
							発達障害作業療法治療学演習	3後	1	1		
							日常生活活動学演習(作業療法)	3後	1	1		
							地域作業療法学※	3後	0.3	1		
							地域作業療法学演習	4後	1	1		
							臨床見身体験実習(作業療法)	2前	1	1		
							評価実習(作業療法)	3前	6	1		
							総合臨床実習(作業療法)	4前	16	1		
							卒業研究(作業療法)	4後	2	1		
							卒業研究(作業療法)	4後	2	1		
21	専	講師	ウチダ タツジ 内田 達二 < 平成25年4月 >		修士 (リハビリ テーション)		作業療法学研究法※	3後	0.5	1	専門学校東京医療学院 作業療法学科 専任教員 (平11.5)	5日
							身体障害作業療法治療学演習	3後	1	1		
							老年期作業療法治療学	3前	2	1		
							老年期作業療法治療学演習	3前	1	1		
							日常生活活動学(作業療法)	3前	1	1		
							日常生活活動学演習(作業療法)	3後	1	1		
							地域作業療法学※	3後	0.5	1		
							地域作業療法学演習	4後	1	1		
							臨床見身体験実習(作業療法)	2前	1	1		
							評価実習(作業療法)	3前	6	1		
							総合臨床実習(作業療法)	4前	16	1		
							卒業研究(作業療法)	4後	2	1		
							卒業研究(作業療法)	4後	2	1		
							卒業研究(作業療法)	4後	2	1		
22	専	講師	マツモト ナオト 松本 直人 < 平成25年4月 >		修士(老 年学)		理学療法技術論P(呼吸器系)	3後	2	1	専門学校 東京医療学院 理学療法学科 教務部長 (平21.4)	5日
							日常生活活動学(理学療法)	3前	1	1		
							日常生活活動学演習(理学療法)※	3前	1.1	2		
							地域理学療法学演習	4後	1	1		
							臨床見身体験実習(理学療法)	2前	1	1		
							評価実習(理学療法)	3前	6	1		
							総合臨床実習(理学療法)	4前	12	1		
							卒業研究(理学療法)	4後	2	1		

調 査 番 号	専 任 等 区 分	職 位	フリガナ 氏名 < 就任(予定)年月 >	年 齢	保 有 学 位 等	月 額 基 本 給 (千円)	担当授業科目の名称	配 当 年 次	担 当 単 位 数	年 間 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係 る大学等 の職務に 従事する 週当たり 平均日数
141	専	助教	ハネタ ヨシヒロ 羽田 圭宏 < 平成24年4月 >		修士(医 科学)		理学療法評価学B演習(関節可動域・筋力 等評価)	2前	2	2	帝京大学 福岡医療技術学部 理学療法学科 助教 (平19.4)	5日
							運動療法A(基礎運動療法)	2後	2	2		
							物理療法学演習	2前	2	2		
							臨床見身体験実習(理学療法)	2前	1	1		
							評価実習(理学療法)	3前	6	1		
							総合臨床実習(理学療法)	4前	12	1		
							卒業研究(理学療法)	4後	2	1		
◎	専	助教	ヤマグチ イクコ 山口 育子 < 平成24年4月 >		修士(老 年学)		大学導入論※	1前	0.4	1	専門学校東京医療学院 理学療法学科 専任講師 (平22.4)	5日
							理学療法評価学A演習(四肢周径・バイタル サイン等評価)	1後	2	2		
							理学療法評価学C演習 (障害別評価)	2後	2	2		
							地域理学療法学演習	4後	1	1		
							臨床見身体験実習(理学療法)	2前	1	1		
							評価実習(理学療法)	3前	6	1		
							総合臨床実習(理学療法)	4前	12	1		
							卒業研究(理学療法)	4後	2	1		
24	専	助教	ウエハラ エイイチロウ 上原 栄一郎 < 平成24年4月 >		修士(作 業療法 学)		精神障害作業療法治療学演習	3後	1	1	専門学校東京医療学院 作業療法学科 専任教員 (平16.4)	5日
							地域リハビリテーション学※	3後	0.4	1		
							地域作業療法学※	3後	0.3	1		
							地域作業療法学演習	4後	1	1		
							臨床見身体験実習(作業療法)	2前	1	1		
							評価実習(作業療法)	3前	6	1		
							総合臨床実習(作業療法)	4前	16	1		
							卒業研究(作業療法)	4後	2	1		

調査 番号	専任 等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単 位 数	年間 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係 る大学等 の職務に 従事する 週当たり 平均日数
25	兼任	講師	ミヤジマ シュンイチ 宮嶋 俊一 <平成24年10月>		博士 (文学)		生命倫理※	1後	0.8	1	大正大学 非常勤講師 (平13.4)	
26	兼任	講師	タダチ ヒロコ 田口 博子 <平成24年10月>		文学 修士※		生命倫理※	1後	0.4	1	学習院女子大学 国際コミュニケーション学科 非常勤講師 (平21.4)	
27	兼任	講師	マツザキ マサル 松崎 勝 <平成24年10月>		法学士		生命倫理※	1後	0.4	1	松崎法律事務所 所長 (昭64.1)	
							法学入門	1後	1	1		
28	兼任	講師	オカダ モリヒロ 岡田 守弘 <平成24年4月>		文学修 士※		学びの技法※	1前	0.4	1	横浜国立大学名誉教授 (平19.4)	
							教育学	1後	2	1		
29	兼任	講師	ハシバ マリコ 橋場 万里子 <平成24年4月>		修士(人 文学)		歴史郷土学	1前	1	1	公益財団法人 多摩市文化振興財団 学芸員 (平20.4)	
30	兼任	講師	サイトウ ヒデトシ 齋藤 秀敏 <平成24年4月>		博士 (工学)		情報処理(基礎)	1前	3	3	首都大学東京大学院 人間健康科学研究科放射線 学専攻 専任教授 (平17.4)	
							情報処理(応用)	1後	3	3		
31	兼任	講師	ミウジウヤマ アツシ 明上山 温 <平成24年4月>		博士 (工学)		情報処理(基礎)	1前	3	3	首都大学東京 健康福祉学部放射線学科 助教 (平19.4)	
							情報処理(応用)	1後	3	3		
32	兼任	講師	ミカミ タケヒロ 三上 岳彦 <平成24年4月>		理学 博士		環境科学	1前	1	1	首都大学東京名誉教授 (平20.4) 帝京大学文学部 教授 (平20.4)	
33	兼任	講師	ヒロセ ハジメ 廣瀬 肇 <平成24年4月>		医学博 士		生命科学入門※	1前	0.3	1	東京大学 名誉教授 (平5.5)	
34	兼任	講師	オカノジェイムスヒロタ カ 岡野ジェイムス洋尚 <平成24年4月>		博士(医 学)		生命科学入門※	1前	0.4	1	慶應義塾大学 医学部 生理 学教室 准教授 (平19.4)	
35	兼任	講師	フナバシ トシヤ 松橋 利也 <平成24年4月>		博士(医 学)		生命科学入門※	1前	0.4	1	聖マリアナ医科大学生理学 学(細胞・器官生理学分野) 教授 (平19.4)	
36	兼任	講師	スワ シゲキ 諏訪 茂樹 <平成24年4月>		社会学 修士※		行動科学	1前	1	1	東京女子医科大学 大学院看護学研究科 准教授 (平14.4)	
							コミュニケーション論	1前	2	2		
37	兼任	講師	コバヤシ モトヒロ 小林 基宏 <平成24年4月>		博士(工 学)		自然科学概論	1前	4	2	(法)湘南ふれあい学園 横浜専門学校 臨床工学学科 専任教員 (平21.2)	
38	兼任	講師	ナマタメ ハルカ 生田目 春香 <平成24年10月>		修士(理 学)		物理学入門	1後	1	1	専門学校 東京医療学院 非常勤講師 (平23.4)	
39	兼任	講師	ミサカ ショウジ 三坂 昇司 <平成24年10月>		経営修 士 (専門 職)		統計学	1後	2	1	財団法人流通経済研究所 店頭研究開発室 (平22.5)	
40	兼任	講師	トクダ テツオ 徳田 哲男 <平成26年10月>		博士 (工学博 士)		福祉工学	3後	1	1	埼玉県立大学 保健医療福祉学部社会福祉 学科 教授・学科長 (平19.4)	

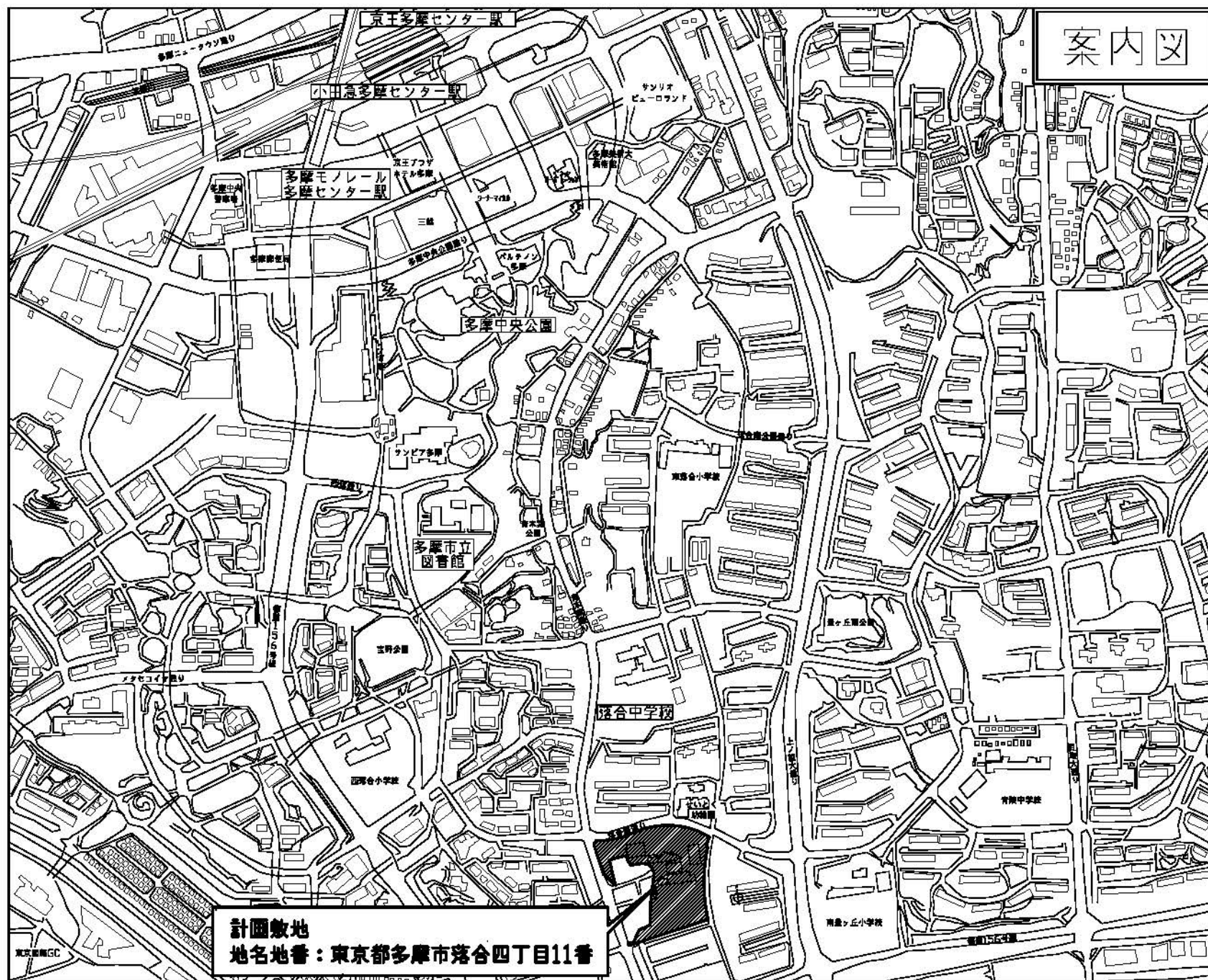
調 査 番 号	専 任 等 区 分	職 位	フリガナ 氏名 < 就任(予定)年月 >	年 齢	保 有 学 位 等	月 額 基 本 給 (千円)	担当授業科目の名称	配 当 年 次	担 当 単 位 数	年 間 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係 る大学等 の職務に 従事する 週当たり 平均日数
41	兼任	講師	ミウラ シュウイチ 三浦 修一 < 平成24年4月 >		教育学 修士		日本語表現法	1前	1	1	横浜国立大学 教育人間科学部 非常勤講師 (平23.4)	
42	兼任	講師	スギヤマ アキエ 杉山 明枝 < 平成24年4月 >		修士 (文学)		英語(基礎)	1前	1	1	専門学校東京医療学院 非常勤講師 (平19.4)	
							英語(英会話)	1後	1	1		
							保健医療英語入門	3前	1	1		
							保健医療英語講読	3後	1	1		
43	兼任	講師	ヤマモト ケイジウ 山本 亮一 < 平成24年4月 >		体育 学士		スポーツ・レクリエーション	1前	1	1	首都大学東京 基礎教育センター 准教授 (平17.4~平21.3)	
44	兼任	講師	オオウチ コウイチ 大内 晃一 < 平成26年4月 >		工学士		東洋手技療法入門	3前	1	1	東京医療福祉専門学校 非常勤講師 (平21.4)	
45	兼任	講師	カワシマ ユキコ 川島 由起子 < 平成25年4月 >		栄養学 博士		栄養学	2前	1	1	聖マリアンナ医科大学病院 栄養部 部長 (平15.4)	
46	兼任	講師	ナガハラ ノリエキ 永原 則之 < 平成25年4月 >		医学 博士		公衆衛生学※	2前	0.4	1	日本医科大学 衛生学公衆衛生学講座 准教授 (平19.4)	
47	兼任	講師	キタムラ カツヒロ 北村 勝彦 < 平成25年4月 >		博士(医 学)		公衆衛生学※	2前	0.4	1	横浜市立大学医学部 社会予防医学教室 准教授 (平7.7)	
48	兼任	講師	チバ モモコ 千葉 百子 < 平成25年4月 >		博士(医 学)		公衆衛生学※	2前	0.3	1	順天堂大学 医学部衛生学講座 客員教授 (平18.4)	
49	兼任	講師	キド リュウイチ 城戸 竜一 < 平成25年4月 >		-		医療安全管理	2前	1	1	日本医科大学多摩永山病院 医療安全管理部 (平21.4)	
50	兼任	講師	スズキ ヒデノリ 鈴木 秀典 < 平成25年10月 >		医学 博士		薬理学概論	2後	1	1	日本医科大学 医学部薬理学講座 教授 (平13.12)	
51	兼任	講師	トクナガ アキラ 徳永 昭 < 平成25年10月 >		医学 博士		外科学概論	2後	1	1	日本医科大学 名誉教授 (平22.4)	
52	兼任	講師	ハマダ ヨシキ 濱田 良樹 < 平成25年10月 >		医学 博士		整形外科学※	2後	1.1	1	山梨大学名誉教授 (平21.4) 医療法人社団 創進会 みつわ台総合病院 院長 (平21.4)	
53	兼任	講師	マエカワ シンゴ 前川 慎吾 < 平成25年10月 >		博士 (医学)		整形外科学※	2後	0.3	1	市立甲府病院 整形外科 部長 (平22.4)	
54	兼任	講師	ホリウチ タダヒロ 堀内 忠一 < 平成25年10月 >		博士 (医学)		整形外科学※	2後	0.3	1	市立甲府病院 整形外科 科長 (平22.4)	
55	兼任	講師	スギヤマ ハジメ 杉山 肇 < 平成25年10月 >		医学博 士		整形外科学※	2後	0.4	1	神奈川七沢リハビリテーショ ン病院 整形外科統括部長 (平22.4)	

調 査 番 号	専 任 等 区 分	職 位	フリガナ 氏名 < 就任(予定)年月 >	年 齢	保 有 学 位 等	月 額 基 本 給 (千円)	担 当 授 業 科 目 の 名 称	配 当 年 次	担 当 単 位 数	年 間 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係 る大学等 の職務に 従事する 週当たり 平均日数
56	兼任	講師	タカハシヒロシ 高橋 弘 < 平成25年10月 >		博士 (医学)		脳神経外科学	2後	1	1	医療法人景雲会 春日居リハビリテーション病 院 総院長 脳神経外科 (平22.6) 日本医科大学 脳神経外科連携教授 (平22.10)	
57	兼任	講師	セキネ ノリオ 関根 紀夫 < 平成26年4月 >		博士(工 学)		医用画像解析学概論	3前	1	1	首都大学東京大学院 人間健康科学研究科放射線 科学域 准教授 (平17.4)	
58	兼任	講師	オノ クロ 小野 久里子 < 平成25年10月 >		修士(リ ハビリ テーショ ン)		言語聴覚学概論	2後	1	1	専門学校 東京医療学院 理学療法学科・作業療法学 科 非常勤講師 (平17.11)	
59	兼任	講師	オガタ サトシ 雄賀多 聡 < 平成24年4月 >		医学 博士		リハビリテーション概論	1前	1	1	千葉県立保健医療大学 健康科学部 リハビリテー ション学科 理学療法専攻 教授 (平21.4)	
60	兼任	講師	ツルタ ミツコ 鶴田 光子 < 平成24年4月 >		社会 学士		社会福祉概論	1前	2	1	社会福祉法人聖テレジア 会 聖テレジア病院 非常勤 (平21.11)	
61	兼任	講師	ウヱツカ ヨシオ 上塚 芳郎 < 平成26年4月 >		医学 博士		保健医療制度概論	3前	2	1	東京女子医科大学 医学部 教授 (平17.2)	
62	兼任	講師	トヨタ ヘイスケ 豊田 平介 < 平成26年4月 >		修士(保 健医療 学)		理学療法技術論A(成人中枢神経系疾患)	3前	2	1	普門院診療所 リハビリテーション科 科長 (平21.4)	
⑦	兼任	講師	タシロ チェミ 上田 泰志 < 平成26年10月 >		博士(学 術)		理学療法技術論C(小児中枢神経系)※	3後	0.5	1	帝京平成大学 健康メディカル学部 理学療法学科 教授 (平18.4)	
63	兼任	講師	マツイ ノブコ 松井 伸子 < 平成26年10月 >		学士(教 養)		運動療法D(外傷性疾患運動療法)	3後	2	2	専門学校 東京医療学院 理学療法学科 夜間部専任 教員 (平18.4)	
64	兼任	講師	ノグチ シンジ 野口 慎二 < 平成26年4月 >		—		義肢学(理学療法)	3前	1	1	東京都 リハビリテーション病院 リハビリテーション部 理学療法科 (平18.10)	
							装具学(理学療法)	3後	1	1		
65	兼任	講師	フルタ ツネト 古田 常人 < 平成26年4月 >		心理学 修士		義肢学(作業療法)	3前	1	1	文京学院大学 保健医療技術学部 専任講師 (平19.4)	
							装具学(作業療法)	3後	1	1		
66	兼任	講師	ソガ ヨシオ 曽我 好男 < 平成24年10月 >		文学士		地域の保健医療福祉※	1後	0.6	1	多摩市役所 企画政策 部長 (平22.7)	
67	兼任	講師	サトウ ヒデキ 佐藤 秀紀 < 平成24年10月 >		医学士		地域の保健医療福祉※	1後	0.3	1	せいせき サトウクリニック 開業 (昭63.4)	
	専任 補充						理学療法技術論C(小児中枢神経系)※	3後	0.5	1		

専任教員の年齢構成・学位保有状況										
職 位	学 位	29 歳 以 下	30 ～ 39 歳	40 ～ 49 歳	50 ～ 59 歳	60 ～ 64 歳	65 ～ 69 歳	70 歳 以 上	合 計	備 考
教 授	博 士				3 人	2 人	6 人	1 人	12 人	
	修 士						1 人		1 人	
	学 士									
	短期大学士									
	その他									
准教授	博 士			2 人					2 人	
	修 士			1 人	2 人				3 人	
	学 士									
	短期大学士									
	その他									
講 師	博 士									
	修 士			1 人	3 人				4 人	
	学 士									
	短期大学士									
	その他									
助 教	博 士									
	修 士		2 人		1 人				3 人	
	学 士									
	短期大学士									
	その他									
合 計	博 士			2 人	3 人	2 人	6 人	1 人	14 人	
	修 士		2 人	2 人	6 人		1 人		11 人	
	学 士									
	短期大学士									
	その他									

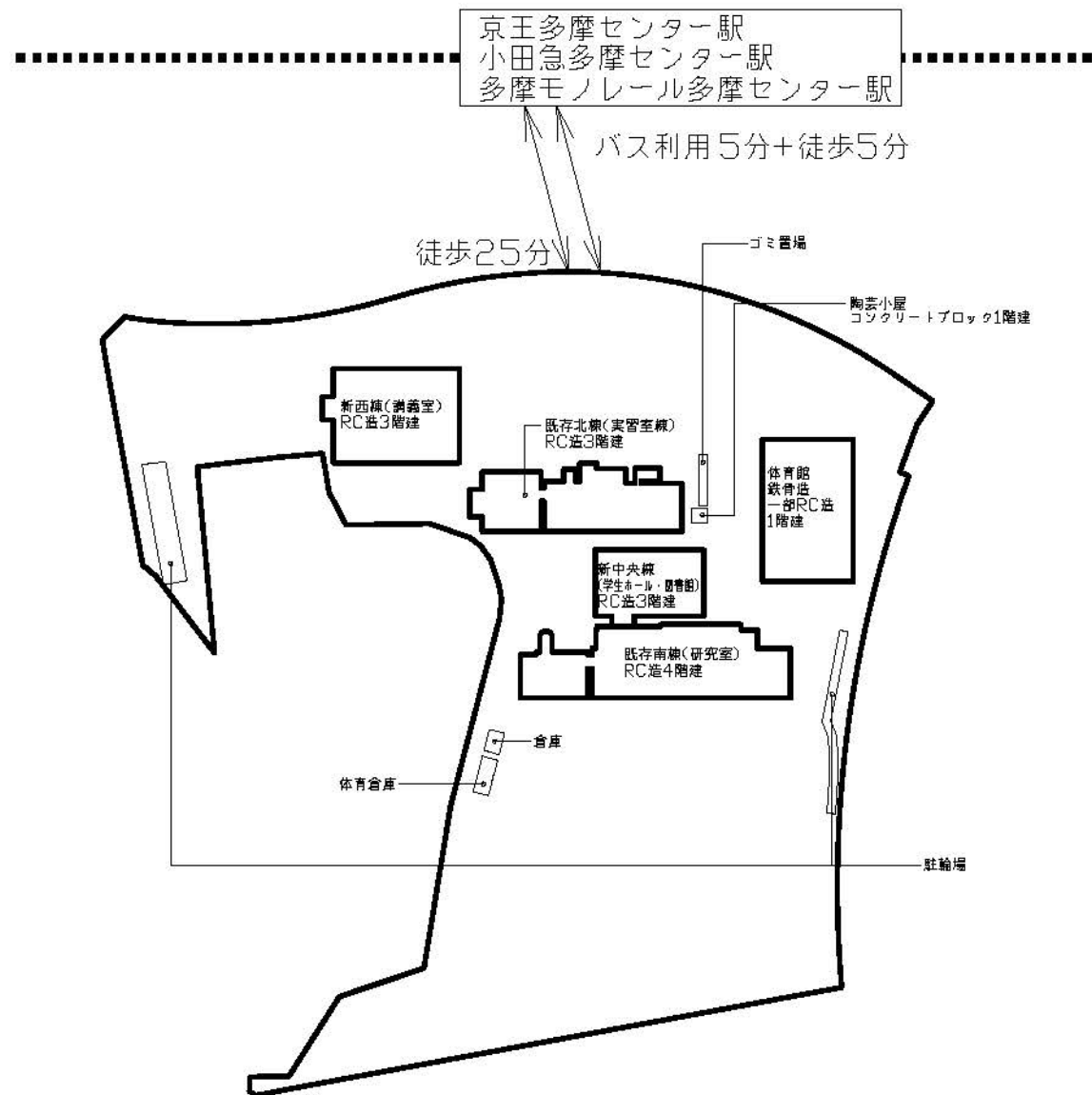
東京都全図





地 23,347m²
所在地：東京都多摩市落合四丁目11番

アクセス



配置図



基準建物面積表

既存南棟	3,046.21 m²
既存北棟	1,581.60 m²
新西棟	2,029.74 m²
新中央棟	828.81 m²
陶芸小屋	14.44 m²
合計	7,500.80 m²

土地面積	23,347m²
○校地	18,583m²
○その他	4,764m²
駐車場	1,000m²
駐輪場	365m²
法面	3,399m²